

17 第二部商経学科専門科目

授業科目	現代社会論		担当者	山口 祐司
	[履修年次] 1,2,3 年	[学期] 後期	[単位] 2 単位	[授業外対応] メール等で予約の上適宜対応します。
	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】私たちの社会における「分断」の問題を、「グローバリゼーション」と「新自由主義」という視座から考えていきます。</p> <p>【概要】この授業は、現代社会を主として 1970 年代以降の資本主義の調整・発展という切り口からとらえていきます。「グローバリゼーション」(第 2～4 回)、「新自由主義」(第 5～7 回) というキーワードでまず理解の枠組みを整理し、現代社会が直面する大きな問題 (第 8～12 回) についてそれぞれ検討します。最後に問題の打開の兆し (第 13～14 回) をみていきます。</p> <p>【到達目標】現代社会が直面するさまざまな問題について理解を深めること。問題の背景について考え、これからの社会を作る一員として解決策を見出す力をつけること。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 講義時に提示</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス、現代社会をとらえる視座：グローバリゼーションと新自由主義</p> <p>第 2 回 グローバリゼーション (1) グローバリゼーションとは何か</p> <p>第 3 回 グローバリゼーション (2) グローバリゼーションと企業</p> <p>第 4 回 グローバリゼーション (3) グローバリゼーションと国・地域</p> <p>第 5 回 新自由主義 (1) 経済学における自由</p> <p>第 6 回 新自由主義 (2) 新自由主義とは何か</p> <p>第 7 回 新自由主義 (3) 新自由主義政策と格差問題</p> <p>第 8 回 現代社会の諸問題 (1) 民族・宗教をめぐる国際紛争</p> <p>第 9 回 現代社会の諸問題 (2) 人の移動と排外主義</p> <p>第 10 回 現代社会の諸問題 (3) 疲弊する地域経済</p> <p>第 11 回 現代社会の諸問題 (4) 行き詰まる社会保障システム</p> <p>第 12 回 現代社会の諸問題 (5) 悪化する地球環境問題</p> <p>第 13 回 行き詰まりを打開するために (1) 所得再分配の模索</p> <p>第 14 回 行き詰まりを打開するために (2) 世界的に活発化する社会運動</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	事前に予習用の参考文献を提示することがあります。授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。			
成績評価の方法	レポート (60%)、毎回の授業で実施する授業まとめ (40%)			
実務経験について	なし。			

授業科目	経済学		担当者	山口 祐司
	[履修年次] 指定なし	[学期] 前期	[単位] 2 単位	[授業外対応] メール等で予約の上適宜対応します。
	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ミクロ経済学・マクロ経済学を中心に経済学の基礎的な考え方を学んでいきます。</p> <p>【概要】経済とは、経済学の考え方 (第 1～2 回)。ミクロ経済学の基礎的理論 (第 3～7 回)。マクロ経済学の基礎理論 (第 8～14 回)。</p> <p>【到達目標】経済学の基礎的な概念と理論を理解すること。新聞などに登場する時事的な経済問題について、自分なりの観点をもちつこと。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) マンキュー, N・グレゴリー (2014) 『マンキュー入門経済学 [第 2 版]』 東洋経済新報社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 授業ガイダンス、経済とは何か</p> <p>第 2 回 経済学の考え方</p> <p>第 3 回 ミクロ経済学の基礎 (1) 需要と供給</p> <p>第 4 回 ミクロ経済学の基礎 (2) 価格決定と政府の政策</p> <p>第 5 回 ミクロ経済学の基礎 (3) 市場の効率性</p> <p>第 6 回 ミクロ経済学の基礎 (4) 不完全市場</p> <p>第 7 回 ミクロ経済学の基礎 (5) ミクロ経済学のまとめ</p> <p>第 8 回 マクロ経済学の基礎 (1) GDP の測定</p> <p>第 9 回 マクロ経済学の基礎 (2) インフレーションとデフレーション</p> <p>第 10 回 マクロ経済学の基礎 (3) 経済成長</p> <p>第 11 回 マクロ経済学の基礎 (4) 貯蓄、投資と金融システム</p> <p>第 12 回 マクロ経済学の基礎 (5) マクロ経済政策の役割</p> <p>第 13 回 マクロ経済学の基礎 (6) 外国貿易</p> <p>第 14 回 マクロ経済学の基礎 (7) マクロ経済学のまとめ</p> <p>第 15 回 全体のまとめ、テスト対策</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回の授業範囲の予習 (テキスト)・復習のほか、新聞の経済欄を日常から読むようにしてください。			
成績評価の方法	筆記試験 (60%)、毎回の授業で実施する授業まとめ (40%)			
実務経験について	なし。			

授業科目	社会学		担当者	元橋 利恵				
	〔履修年次〕	1,2,3年	授業外対応					
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会学入門—ジェンダー、家族、労働問題から考える。</p> <p>【概要】ジェンダー、家族、労働、ケアなど様々なテーマを通して、後期近代社会を生きる私たちが直面している、構造的な諸問題について考えていく。現在「あたりまえ」とされているような社会的規範（働き方、性別分業、コミュニケーション様式など）を相対化し、誰もが生きやすい社会を構想するために社会学の基礎を学んでいく。</p> <p>【到達目標】社会学の基礎的な考え方、概念、タームを学び、自ら複雑な社会問題について自身で情報を収集し、また、データを読み解き、分析的に考える力を身につけること。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業内で指示、配布する。</p> <p>(2) 永田夏来、松木洋人編著 (2017)『入門家族社会学』新泉社、笹川あゆみ編著 (2017)『ジェンダーとわたし』</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 イントロダクション ジェンダー、セクシュアリティをめぐる「ふつう」</p> <p>第 2 回 日本における近代家族の成立と発展 (1) 近代家族の登場</p> <p>第 3 回 日本における近代家族の成立と発展 (2) 大衆化</p> <p>第 4 回 雇用とジェンダー (1) 女性の雇用の変遷 雇用機会均等法</p> <p>第 5 回 雇用とジェンダー (2) 非正規化</p> <p>第 6 回 雇用とジェンダー (3) 家事労働、ケア労働</p> <p>第 7 回 性差別の歴史と抵抗運動 (1) フェミニズムとは</p> <p>第 8 回 性差別の歴史と抵抗運動 (2) 第二波フェミニズム、現代のフェミニズム</p> <p>第 9 回 同性愛差別の歴史と運動史 (1)</p> <p>第 10 回 同性愛差別の歴史と運動史 (2)</p> <p>第 11 回 政治とジェンダー</p> <p>第 12 回 身体の健康、性と社会</p> <p>第 13 回 性暴力の「神話」</p> <p>第 14 回 男性学とは—マジョリティと差別問題</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業内で指定するテキストを読み、講義のあと復習すること。							
成績評価の方法	毎回のミニ課題 40%、最終レポート 60%							
実務経験について	なし							

授業科目	文化と社会		担当者	田口 康明				
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	taguchi@k-kentan.ac.jp メール				
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文化と社会の関連について、教育的な側面から検討する。手がかりとして、ひとりの子どもがどのように社会的文化的にその社会の成員になっていくのかについて検討する。</p> <p>【概要】本科目は、専門基礎科目に位置づけられているが、一定の文化を保持する社会と人間の関わりを子どもの成長という側面からとらえるものである。今日、「幼児」の世界は、「大人」の側からの強大な圧力にさらされ、「幼児」を「幼児」たらしめている「幼児期」が軽視されている。こうした今日の「幼児」と「幼児期」をどのようにとらえるのかについて、テキストをとおして検討する。</p> <p>【到達目標】 1) テキストを熟読する。 2) 幼児期の特徴について深く理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 岡本夏木『幼児期』岩波新書、2005年</p> <p>(2) 授業内で随時紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス この授業のすすめ方</p> <p>第 2 回 「しつけ」 1 しつけとは/自己実現</p> <p>第 3 回 「しつけ」 2 「問題解決」としつけ/大人の非合理性</p> <p>第 4 回 「あそび」 1 発達と身体/象徴あそび</p> <p>第 5 回 「あそび」 2 ルール/思考と文化</p> <p>第 6 回 「表現」 1 生活と表現</p> <p>第 7 回 「表現」 2 独自性と共同性</p> <p>第 8 回 「ことば」 1 ことばの世界と身体</p> <p>第 9 回 「ことば」 2 ことばのない世界</p> <p>第 10 回 「ことば」 3 身体と心的世界の結合</p> <p>第 11 回 「ことば」 4 ことばの世界の前</p> <p>第 12 回 「ことば」 5 ことばの成り立ちと私の世界</p> <p>第 13 回 「ことば」 6 関係性とことば</p> <p>第 14 回 「幼児期」 1 存在と時間</p> <p>第 15 回 「幼児期」 2 自分にとっての幼児期 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業内で指示 (テキストの指示した範囲を必ず読むこと)							
成績評価の方法	授業中の発表 (各自分担する) 70%、ファイナルレポート 30%							
実務経験について	なし							

授業科目	行政法		担当者	山本 敬生																																													
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	適宜対応 (要予約)																																													
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法の基本構造を体系的に把握し、行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。</p> <p>【概要】周知のとおり、行政法は通則的法典が存在しておらず、そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では、行政法の基本原則である法律による行政の原理（法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則）、行政行為、行政立法、行政計画、行政指導、行政契約等の行政の行為形式論、行政上の義務履行確保制度、行政手続等の行政上の一般制度をわかりやすく解説し行政法の基礎理論を体系的に理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法といった一般法について、国民の権利救済という視点から学習する。</p> <p>【到達目標】行政法の基本原則、行政の行為形式論、行政上の一般制度、行政救済法について説明できるようになり、行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法（令和6年度版）』、有斐閣</p>																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>行政法概論</td> <td>行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>行政立法</td> <td>法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>行政行為(1)</td> <td>公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>行政行為(2)</td> <td>無効の行政行為、取消しうべき行政行為、羁束行為、裁量行為について</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>行政指導</td> <td>規制行政指導、助成的行政指導、調整的行政指導、要綱行政について</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>行政上の強制執行制度</td> <td>代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政サービスの提供拒否について</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>行政手続法</td> <td>申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>行政不服申立て</td> <td>審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示について</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>行政事件訴訟法(1)</td> <td>抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>行政事件訴訟法(2)</td> <td>取消判決の効力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>行政事件訴訟法(3)</td> <td>原告適格、保護に値する利益説、狭義の訴えの利益について</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>国家賠償法(1)</td> <td>代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>国家賠償法(2)</td> <td>公の營造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>損失補償</td> <td>奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>公物</td> <td>公共用物、公用物、自然公物、人工公物、公物の時効取得について</td> </tr> </table>				第 1 回	行政法概論	行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について	第 2 回	行政立法	法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について	第 3 回	行政行為(1)	公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について	第 4 回	行政行為(2)	無効の行政行為、取消しうべき行政行為、羁束行為、裁量行為について	第 5 回	行政指導	規制行政指導、助成的行政指導、調整的行政指導、要綱行政について	第 6 回	行政上の強制執行制度	代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政サービスの提供拒否について	第 7 回	行政手続法	申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について	第 8 回	行政不服申立て	審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示について	第 9 回	行政事件訴訟法(1)	抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について	第 10 回	行政事件訴訟法(2)	取消判決の効力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について	第 11 回	行政事件訴訟法(3)	原告適格、保護に値する利益説、狭義の訴えの利益について	第 12 回	国家賠償法(1)	代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について	第 13 回	国家賠償法(2)	公の營造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について	第 14 回	損失補償	奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について	第 15 回	公物	公共用物、公用物、自然公物、人工公物、公物の時効取得について
第 1 回	行政法概論	行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について																																															
第 2 回	行政立法	法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について																																															
第 3 回	行政行為(1)	公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について																																															
第 4 回	行政行為(2)	無効の行政行為、取消しうべき行政行為、羁束行為、裁量行為について																																															
第 5 回	行政指導	規制行政指導、助成的行政指導、調整的行政指導、要綱行政について																																															
第 6 回	行政上の強制執行制度	代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政サービスの提供拒否について																																															
第 7 回	行政手続法	申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について																																															
第 8 回	行政不服申立て	審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示について																																															
第 9 回	行政事件訴訟法(1)	抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について																																															
第 10 回	行政事件訴訟法(2)	取消判決の効力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について																																															
第 11 回	行政事件訴訟法(3)	原告適格、保護に値する利益説、狭義の訴えの利益について																																															
第 12 回	国家賠償法(1)	代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について																																															
第 13 回	国家賠償法(2)	公の營造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について																																															
第 14 回	損失補償	奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について																																															
第 15 回	公物	公共用物、公用物、自然公物、人工公物、公物の時効取得について																																															
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。																																																
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言内容 (10%) を基準にして評価する。																																																
実務経験について	なし																																																

授業科目	金融論		担当者	岩上 敏秀																																													
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。																																													
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】金融の仕組みや、経済社会の中で金融取引が果たしている役割について理解を深めます。</p> <p>【概要】モノやサービスが取引される裏では必ずお金が動きます。経済活動には、お金がスムーズに動く仕組みが不可欠です。金融とは世の中でお金がスムーズに動く仕組みのこと。本講義では、経済社会における金融の役割を学んだうえで、銀行や証券会社の役割、証券取引や日本銀行による金融政策まで幅広いテーマを採り上げます。金融と経済のかかわりを幅広く学び、社会人として必要な金融知識を身につけます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使って、受講者の意見を聞きながら双方の講義を行います。</p> <p>【到達目標】金融の基本的な仕組みや用語を理解し、仕事や生活で関わる金融に関する出来事について説明できるようになる。</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>ガイダンス： 講義の目的・進め方</td> <td>序論：金融の仕組みと役割を知ろう。なぜ金融を学ぶのか考えよう</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>資金循環： 日本の中での金のお金の大きな動きについて知ろう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>家計の貯蓄と金融資産選択： 家計の消費・貯蓄・投資行動について考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>企業の投資と資金調達： 企業がお金を必要とする理由やその資金調達の方法について考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>金融取引の特徴と課題： 金融取引の特徴について考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>金融取引と金利： 金利について学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>銀行の役割： 銀行の役割や業務内容、地域金融機関（鹿銀や南銀など）について学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>金融市場： 金融機関の間で金融取引を行う金融市場の役割について学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>株式会社と証券市場： そもそも株式会社とは何か、株式市場や株式の取引ルールについて学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>株式市場： 株価はどのように決定されるのかについて考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>債券市場： 債券とは何か、債券の役割について考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>日本銀行と金融政策（1）： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>日本銀行と金融政策（2）： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>金融危機と規制： バブル崩壊やリーマンショックといった金融危機について考えよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>まとめ、講義評価アンケート実施</td> <td></td> </tr> </table>				第 1 回	ガイダンス： 講義の目的・進め方	序論：金融の仕組みと役割を知ろう。なぜ金融を学ぶのか考えよう	第 2 回	資金循環： 日本の中での金のお金の大きな動きについて知ろう		第 3 回	家計の貯蓄と金融資産選択： 家計の消費・貯蓄・投資行動について考えよう		第 4 回	企業の投資と資金調達： 企業がお金を必要とする理由やその資金調達の方法について考えよう		第 5 回	金融取引の特徴と課題： 金融取引の特徴について考えよう		第 6 回	金融取引と金利： 金利について学ぼう		第 7 回	銀行の役割： 銀行の役割や業務内容、地域金融機関（鹿銀や南銀など）について学ぼう		第 8 回	金融市場： 金融機関の間で金融取引を行う金融市場の役割について学ぼう		第 9 回	株式会社と証券市場： そもそも株式会社とは何か、株式市場や株式の取引ルールについて学ぼう		第 10 回	株式市場： 株価はどのように決定されるのかについて考えよう		第 11 回	債券市場： 債券とは何か、債券の役割について考えよう		第 12 回	日本銀行と金融政策（1）： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう		第 13 回	日本銀行と金融政策（2）： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう		第 14 回	金融危機と規制： バブル崩壊やリーマンショックといった金融危機について考えよう		第 15 回	まとめ、講義評価アンケート実施	
第 1 回	ガイダンス： 講義の目的・進め方	序論：金融の仕組みと役割を知ろう。なぜ金融を学ぶのか考えよう																																															
第 2 回	資金循環： 日本の中での金のお金の大きな動きについて知ろう																																																
第 3 回	家計の貯蓄と金融資産選択： 家計の消費・貯蓄・投資行動について考えよう																																																
第 4 回	企業の投資と資金調達： 企業がお金を必要とする理由やその資金調達の方法について考えよう																																																
第 5 回	金融取引の特徴と課題： 金融取引の特徴について考えよう																																																
第 6 回	金融取引と金利： 金利について学ぼう																																																
第 7 回	銀行の役割： 銀行の役割や業務内容、地域金融機関（鹿銀や南銀など）について学ぼう																																																
第 8 回	金融市場： 金融機関の間で金融取引を行う金融市場の役割について学ぼう																																																
第 9 回	株式会社と証券市場： そもそも株式会社とは何か、株式市場や株式の取引ルールについて学ぼう																																																
第 10 回	株式市場： 株価はどのように決定されるのかについて考えよう																																																
第 11 回	債券市場： 債券とは何か、債券の役割について考えよう																																																
第 12 回	日本銀行と金融政策（1）： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう																																																
第 13 回	日本銀行と金融政策（2）： 日本銀行の役割や金融政策について学ぼう																																																
第 14 回	金融危機と規制： バブル崩壊やリーマンショックといった金融危機について考えよう																																																
第 15 回	まとめ、講義評価アンケート実施																																																
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します																																																
成績評価の方法	中間レポート (30%) + 期末試験 (70%)																																																
実務経験について	国内外の金融機関で約 30 年の実務経験があります																																																

授業科目	社会政策		担当者	近間 由幸
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「日本型雇用システム」の下での労働・生活の全体像と社会政策の関係性について</p> <p>【概要】授業では、大企業男性正社員をモデルとして構築されてきた「日本型雇用システム」とそれに基づく社会政策について解説し、このシステムの周辺部に位置する失業者、女性、若者の格差・貧困の問題に対処するための社会政策を解説する。</p> <p>【到達目標】受講学生には、国の社会政策が自身の生活と密接にかかわっていることを理解してもらい、日本社会における格差や貧困の実態に問題意識を持ち、社会政策の方向性について自分の考えを持てるようになることを目指す。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 久本憲夫・瀬野陸見・北井万裕子編『日本の社会政策 (第3版)』ナカニシヤ出版</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 イントロダクションー日本社会の「しくみ」について</p> <p>第 2 回 社会政策とはなにか</p> <p>第 3 回 賃金と社会政策</p> <p>第 4 回 企業と労働組合の関係</p> <p>第 5 回 過労死と長時間労働</p> <p>第 6 回 非正規雇用とは何か</p> <p>第 7 回 日本社会における入社のしくみと若者支援政策</p> <p>第 8 回 日本型雇用システムと女性の働き方</p> <p>第 9 回 子育てと雇用政策</p> <p>第 10 回 高齢者の福祉と雇用</p> <p>第 11 回 働けないときにどのような支援があるのか</p> <p>第 12 回 社会保険と生活保護の溝</p> <p>第 13 回 労働市場政策の国際比較ースウェーデンモデルを事例として</p> <p>第 14 回 移民問題と外国人労働者</p> <p>第 15 回 全体のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%)、筆記試験 (70%)			
実務経験について	なし			

授業科目	民法		担当者	藤野 博行
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	基本的にいつでも対応します。
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】民法に関する基本的な知識を学び、身の回りの課題についての解決策を考えます。</p> <p>【概要】サービスを受ける、プレゼントを贈るなど、みなさんが日々何気なく行っている活動を円滑に行うための基本ルールの多くは民法に定められています。本科目は、民法の基本的な知識について講義形式で学ぶとともに、グループで身近な法的トラブルに関する文献を読解し、解決策について考えます。</p> <p>【到達目標】①民法に関する基本的なキーワードや考え方について、その内容を説明できる、②課題について、グループで意見を出し合いながら論理的に考え、自分の意見を相手にわかりやすく表現することができる、③異質な他者と議論・協働することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (資料を配付します)</p> <p>(2) 道垣内弘人『リーガルベイス民法入門』日本経済新聞出版社 (2019年) 5280円 ISBN-13:978-4296114641</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 講義を進めるにあたって、民法総則①</p> <p>第 2 回 民法総則②</p> <p>第 3 回 民法総則③</p> <p>第 4 回 民法総則④</p> <p>第 5 回 物権法①</p> <p>第 6 回 物権法②</p> <p>第 7 回 物権法③</p> <p>第 8 回 知識確認テスト (前半パート)</p> <p>第 9 回 債権法①</p> <p>第 10 回 債権法②</p> <p>第 11 回 債権法③</p> <p>第 12 回 親族法</p> <p>第 13 回 相続法</p> <p>第 14 回 知識確認テスト (後半パート)</p> <p>第 15 回 今学期のまとめ・期末テストに向けて</p>			
授業外学習(予習・復習)	講義時に指示します			
成績評価の方法	①知識確認テスト (20点×2)、②期末テスト (50点) ③グループワーク等の際の積極性 (10点)。			
実務経験について	なし			

授業科目	商法		担当者	河野 総史				
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	講義終了後またはメールで対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】商法学のうち、会社法の基礎知識</p> <p>【概要】商法は、「市民の法」たる民法の特別法にあたり、いわば「商人の法」である。商法において学ぶ分野は多岐に渡るが、本講義においては会社法の基礎知識を身に付け、社会の重要な構成要素である会社についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>【到達目標】株式制度と機関設計を中心に、株式会社の基礎知識を身に付けることを目標とする</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 指定しない（レジュメを配布する）</p> <p>(2) 適宜指示する</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 講義ガイダンス 民法と商法</p> <p>第 2回 会社法総論</p> <p>第 3回 会社の種類</p> <p>第 4回 株式①（株式の種類等）</p> <p>第 5回 株式②（株式の譲渡と譲渡制限）</p> <p>第 6回 株式③（自己株式・親会社株式取得規制等）</p> <p>第 7回 株式④（株式併合・分割・無償割当等）</p> <p>第 8回 資金調達①（会社設立時）</p> <p>第 9回 資金調達②（募集株式の発行等）</p> <p>第 10回 資金調達③（株式以外の資金調達手段）</p> <p>第 11回 機関①（機関総論）</p> <p>第 12回 機関②（株主総会）</p> <p>第 13回 機関③（取締役・取締役会）</p> <p>第 14回 機関④（監査役・会計参与・会計監査人）</p> <p>第 15回 機関⑤（指名委員会等設置会社・監査当委員会設置会社）</p>							
授業外学習(予習・復習)	復讐を徹底して、小テストに備えること							
成績評価の方法	期末テスト 80%小テスト 20% 全体で 60%以上を合格とする							
実務経験について	なし							

授業科目	産業心理学		担当者	岡村 俊彦				
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】産業に関わる心理学を多角的に学ぶ</p> <p>【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である。</p> <p>【到達目標】商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開</p> <p>(2) なし</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 概要説明</p> <p>第 2回 人間とシステムの間わり合い、精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質</p> <p>第 3回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用</p> <p>第 4回 ヒューマンインターフェイス1：ヒューマンインターフェイスの基本原則</p> <p>第 5回 ヒューマンインターフェイス2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介</p> <p>第 6回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策</p> <p>第 7回 仕事の成功と動機付け：成功、失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類</p> <p>第 8回 人間関係、労働時間：職場における人間関係。労働時間と仕事の関係</p> <p>第 9回 ユニバーサルデザイン：UDの理論と実践例</p> <p>第 10回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム</p> <p>第 11回 購買心理：消費者の購買心理</p> <p>第 12回 販売、印象管理：セールステクニックと印章管理</p> <p>第 13回 ヒューマンのエラー：人間のエラーのメカニズムと対策</p> <p>第 14回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察</p> <p>第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	通常のレポート2回分が80%、授業ごとのリアクションペーパーが20%							
実務経験について	なし							

授業科目	会計学総論		担当者	宗田 健一		
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	適宜対応		
	[学期]	前期 [単位] 2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】会計学の全体像を知る。</p> <p>【概要】この講義は、これから会計を学習しようと思っている人を対象としています。会計の様々な領域について学習をします。半年間で、会計学の全体的な内容を理解することができます。</p> <p>【到達目標】会計学の全体像を知る。会計学の様々な領域について学ぶ。会計の社会における役割を知る。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小野正芳編著『スタートアップ会计学』（第3版）同文館出版。</p> <p>(2) 桜井久勝『財務会計講義』（第22版）中央経済社（予定）、その他は講義中に指示します。</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、会計って何？ 簿記・会計はどこからやってきたの？ 簿記・会計の歴史概要</p> <p>第2回 会計にどんな資格があるのか？ 会計の社会的役割</p> <p>第3回 会計はどう利用するの？ 財務分析の概要</p> <p>第4回 企業の成績はどうやってみるの？ 財務諸表の概要</p> <p>第5回 会計は経営にどう役立つの？ 管理会計の概要</p> <p>第6回 モノがいくらでできたかはどうやって決まるの？ 原価計算の概要</p> <p>第7回 会計情報はどのように作られるの？ 簿記の概要</p> <p>第8回 会計制度はどうなっているの？ 財務会計の概要</p> <p>第9回 財務諸表は信頼できるの？ 財務諸表監査の概要</p> <p>第10回 会社の税金はいくらになるの？ 税務会計の概要</p> <p>第11回 グローバル経済における会計ルールってなに？ 国際会計の概要</p> <p>第12回 持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるの？ 環境会計・CSR会計の概要</p> <p>第13回 ボランティア活動にも儲けが必要な？ 非営利会計の概要</p> <p>第14回 自治体の会計はどうなっているの？ 公会計の概要</p> <p>第15回 まとめ：試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>					
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。					
成績評価の方法	ミニレポート(30%)、期末レポート(70%)					
実務経験について	なし					

会計関連科目の基礎科目です。簿記論、財務会計論、管理会計論、原価計算、会計情報論を履修する前に、学習することを勧めます。

授業科目	簿記論 I		担当者	岡村 雄輝		
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応		
	[学期]	前期 [単位] 2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原理解を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキストを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原理解の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。</p> <p>【到達目標】簿記上の取引を仕訳・転記する手続から、決算本手続までの概要を理解する。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互、片山覚、北村敬子（編）『新検定 簿記講義3級 商業簿記』（令和6年版）、中央経済社。</p> <p>(2) 伊藤龍峰他『基本簿記原理』（第2版）、中央経済社。</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録の確認、講義概要の説明</p> <p>第2回 簿記とは？：簿記の意義、目的、財務諸表</p> <p>第3回 仕訳と転記：仕訳の意義、勘定への転記</p> <p>第4回 仕訳と元帳：帳簿の種類、仕訳帳への記入、仕訳帳から総勘定元帳への転記</p> <p>第5回 決算（1）：決算の意義と手続、試算表の作成</p> <p>第6回 決算（2）：帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表の作成</p> <p>第7回 決算（3）：ボードゲームで学ぶ仕訳と転記</p> <p>第8回 決算（4）：ボードゲームで学ぶ決算手続</p> <p>第9回 現金と預金：現金勘定と現金出納帳、現金過不足、当座預金と当座借越</p> <p>第10回 現金と預金：当座預金と当座借越、その他の預金、小口現金</p> <p>第11回 繰越商品・仕入・売上：3分法、諸掛と返品</p> <p>第12回 繰越商品・仕入・売上：仕入帳と売上帳、商品有高帳</p> <p>第13回 複式簿記の実践についての講話：公認会計士が語る簿記会計を学ぶ意義：</p> <p>第14回 総合問題：問題演習と解説</p> <p>第15回 総合問題：問題演習と解説</p>					
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。					
成績評価の方法	期末テスト100%					
実務経験について	なし					

授業科目	経営学総論		担当者	竹中 啓之
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	適宜対応 (要予約)、及び講義終了後
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。</p> <p>【概要】この講義では、初めて経営学を学ぶ際に必要と思われる知識や考え方について説明する。経営学が取り扱う様々なテーマを幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、経営学が持つ特徴的な考え方も説明し、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。</p> <p>【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第 2 回 経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。</p> <p>第 3 回 経営学の発展と必要性：経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。</p> <p>第 4 回 企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。</p> <p>第 5 回 企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。</p> <p>第 6 回 企業における4つの経営資源（ヒト）：働く私たちと企業と関係を考える。</p> <p>第 7 回 企業における4つの経営資源（カネ）：企業の資金調達の方法などについて説明する。</p> <p>第 8 回 これまでのまとめと補足説明、及び中間テスト（予定）</p> <p>第 9 回 企業における4つの経営資源（モノ）：主にマーケティングについて説明する。</p> <p>第 10 回 企業における4つの経営資源（情報）：企業における情報の種類やその活用方法について説明する。</p> <p>第 11 回 日本の経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。</p> <p>第 12 回 組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。</p> <p>第 13 回 企業統治について：株式会社の意思決定の仕組みについて説明する。</p> <p>第 14 回 経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。			
実務経験について	なし			

授業科目	情報科学概論		担当者	岡村 俊彦
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】コンピュータやネットワークなど情報科学（ICT）全般の基礎知識を学ぶ</p> <p>【概要】コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア、周辺機器）やネットワークの仕組みを知り、現代社会においてどのような役割があり、どのような問題点があるかを知る。結果として、効果的かつ適切なIT活用が可能となり、トラブル解決もできるようになる。また、ネットワークを安全に使うためのルール、マナーを学ぶ。また、授業の3分の1程度の時間を使い、ITに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。</p> <p>【到達目標】初心者向け情報関連雑誌を80%以上理解できる・初心者に対して、パソコンやネットワークの安全、便利な運用に関する簡単なアドバイスができる・調子の悪いパソコンを直す</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開</p> <p>(2) 初心者向け情報関連雑誌</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 概要説明</p> <p>第 2 回 ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割</p> <p>第 3 回 パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割</p> <p>第 4 回 単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量、速度</p> <p>第 5 回 インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み</p> <p>第 6 回 電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用方法</p> <p>第 7 回 ITセキュリティ：マルウェアとセキュリティ対策</p> <p>第 8 回 インターフェイス：インターフェイスの種類と特性</p> <p>第 9 回 周辺機器1：モニタ、光学ドライブなど周辺機器の役割、仕組み</p> <p>第 10 回 周辺機器2：プリンタ、デジカメなど周辺機器の役割、仕組み</p> <p>第 11 回 ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用方法</p> <p>第 12 回 Web3、クラウド、ビッグデータ、IoT：新たなインターネットのトレンドと今後の展開</p> <p>第 13 回 スペックの見方：パソコン、周辺機器のスペック（仕様）の見方</p> <p>第 14 回 AIとDX、インターネットの国際比較：AIとDXの基本知識、とインターネット利用の国際比較</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	通常のレポート2回分が80%、授業ごとのリアクションペーパーが20%			
実務経験について	なし			

授業科目	文書作成実習		担当者	永仮 ゆかり		
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール		
	[学期]	後期	[単位]	1単位	[授業形態]	演習方式
	[必修/選択]	選択				
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成 3 級）対策を行い、資格取得を目指す。</p> <p>【到達目標】「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成 3 級）対策を行い、資格取得を目指す。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『改訂版 日商 PC 検定試験 3 級 知識科目 公式問題集』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する</p>					
授業スケジュール	<p>第 1 回 前期の復習：概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成）</p> <p>第 2 回 検定対策（3 級）：社外文書の作成（案内状）、知識問題（共通分野）</p> <p>第 3 回 検定対策（3 級）：課題文書作成 1（表を利用した文書の作成）、知識問題（共通分野）</p> <p>第 4 回 検定対策（3 級）：図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野）</p> <p>第 5 回 検定対策（3 級）：報告書の作成（計算式を含む文書）、図形の補足、知識問題（共通分野）</p> <p>第 6 回 検定対策（3 級）：通知状の作成、知識問題（共通分野）</p> <p>第 7 回 検定対策（3 級）：課題文書作成 2（文書作成 3 級実技練習問題）、知識問題（共通分野）</p> <p>第 8 回 検定対策（3 級）：文書作成 3 級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野）</p> <p>第 9 回 検定対策（3 級）：文書作成 3 級検定模擬問題演習</p> <p>第 10 回 Excel データの利用：Excel データ（表、グラフ）の文書への取り込み</p> <p>第 11 回 文書の編集：いろいろな応用機能（スタイル、セクション区切りの挿入、文書の挿入など）</p> <p>第 12 回 報告書の作成：課題文書作成 3（Excel データ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど）</p> <p>第 13 回 稟議書の作成：稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など）</p> <p>第 14 回 議事録の作成：議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど）</p> <p>第 15 回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	知識問題の予習・復習、実技問題の復習など適宜指示					
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%+実技科目 50%）と 3 回の課題（30%）の総合評価					
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座（パソコン講座）の講師					

授業科目	統計学		担当者	倉重 賢治		
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	適宜対応		
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[授業形態]	講義方式
	[必修/選択]	選択				
テーマ及び概要	<p>【テーマ】基本的な統計解析を学ぶ</p> <p>【概要】現在、情報技術を有効に活用してデータ収集を行い、そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では、そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。</p> <p>【到達目標】・基本的なデータ処理を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相関関係について理解する ・検定について理解する 					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 特になし</p>					
授業スケジュール	<p>第 1 回 序論：統計学とは</p> <p>第 2 回 データの基本処理：平均値、度数分布</p> <p>第 3 回 データの基本処理：標準正規分布</p> <p>第 4 回 データの基本処理：正規分布</p> <p>第 5 回 データの基本処理：正規分布と偏差値</p> <p>第 6 回 データの基本処理：確率分布</p> <p>第 7 回 統計解析：相関係数</p> <p>第 8 回 統計解析：回帰直線</p> <p>第 9 回 統計解析：カイ 2 乗検定</p> <p>第 10 回 統計解析：平均値の推定</p> <p>第 11 回 統計解析：平均値の検定</p> <p>第 12 回 統計解析：比率の推定と検定</p> <p>第 13 回 統計解析：ベイズ統計学</p> <p>第 14 回 統計解析：分散分析</p> <p>第 15 回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	授業中の課題（20%）+期末試験（80%）					
実務経験について	なし					

授業科目	応用文書処理		担当者	岡村 俊彦
	〔履修年次〕	2,3年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ</p> <p>【概要】1) 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する。 2) ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し、公開する 3) 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する。</p> <p>【到達目標】初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる・わかりやすいドキュメントを作成する・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Web で公開 (2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 概要説明 第 2回 自己紹介文書作成 1：ワープロを使ったベース文書の作成 第 3回 自己紹介文書作成 2：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合 第 4回 自己紹介文書作成 3：写真、図の取り扱いとベース文書の結合 第 5回 自己紹介文書作成 4：仕上げ。印刷設定のコツ 第 6回 ホームページ作成 1：HTML 概念の復習。USB メモリへのソフトの導入 第 7回 ホームページ作成 2：課題設定とページ作成 第 8回 ホームページ作成 3：資料収集とページ作成 第 9回 ホームページ作成 4：ページ公開 第 10回 提案書作成 1：インターネットによる費用情報検索 第 11回 提案書作成 2：表計算ソフトによる自動計算書 第 12回 提案書作成 3：プレゼン資料の作成 第 13回 提案書作成 4：仕上げ、データ送信のコツ 第 14回 提案書作成 5：プレゼンと評価 第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	レポート (3つの課題を総合的に評価)			
実務経験について	なし			

授業科目	PCデータ活用		担当者	口脇 淳子
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用</p> <p>【概要】表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編修部 30時間でマスター Excel2021 (Windows11 対応) 実教出版株式会社 (2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 Excel の起動と画面の確認 文字入力の確認 第 2回 簡単な表作成とグラフ化：Excel の基本的な流れを確認 第 3回 編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数（合計・平均）の活用 第 4回 編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線 第 5回 データ処理：関数の利用（カウント・端数処理など） 第 6回 データ処理：関数の利用（条件の判定・論理関数など） 第 7回 データ処理：関数の利用（順位づけ・VLOOKUP など） 第 8回 各関数を利用した実習問題（小テスト） 第 9回 棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定（軸ラベル・データラベル・目盛りなど） 第 10回 円グラフ・3-D グラフの作成とさまざまな設定（データ範囲の変更・系列の書式など） 第 11回 複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成（系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など） 第 12回 データベース入門：データベース作成上の各機能 第 13回 データの集計（並べ替え・抽出 ほか） 第 14回 データの集計（ピボットテーブル） 第 15回 前期のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。			
成績評価の方法	期末試験 (70%) + 小テスト (20%) + 授業で課せられる課題の提出状況 (10%)			
実務経験について	企業、個人への講習会講師			

授業科目	PCデータ活用実習		担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年	[学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
テーマ及び概要	<p>【テーマ】Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得</p> <p>【概要】前期に習得した機能を活用し、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。授業は、検定対策として問題形式で進めていくが業務遂行に必要な内容を学習する。</p> <p>【到達目標】知識と技術の習得を日商PC検定試験（データ活用）の3級資格取得で確認 ☆ 後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編修部 30時間でマスター Excel2021 (Windows11 対応) 実教出版株式会社</p> <p>(2) プリント</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 前期授業の復習</p> <p>第2回 検定対策問題：構成比を求める問題 知識科目問題</p> <p>第3回 検定対策問題：データの追加入力がある問題 知識科目問題</p> <p>第4回 検定対策問題：アンケートデータの集計 知識科目問題</p> <p>第5回 検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題 知識科目問題</p> <p>第6回 検定対策問題：利益率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第7回 検定対策問題：データの集計を取る問題 知識科目問題</p> <p>第8回 検定対策問題：達成率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第9回 検定対策問題小テスト（実技問題・知識科目問題）</p> <p>第10回 検定対策問題：伸び率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第11回 検定対策問題：データを参照する問題 知識科目問題</p> <p>第12回 検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題 知識科目問題</p> <p>第13回 検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題 知識科目問題</p> <p>第14回 検定対策問題：集計データをグループ化する問題 知識科目問題</p> <p>第15回 後期のまとめ 知識科目問題</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業後、同じ問題を時間を計って解いてみる			
成績評価の方法	期末試験 (80%) + 小テスト (20%)			
実務経験について	企業、個人への講習会講師			

授業科目	PCアプリケーション実習 (A)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年	[学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応	講義終了時、適宜対応 (要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】様々なアプリケーションソフトを使ってみよう</p> <p>【概要】事務系の職に就いても、プログラミングやPDF編集、データベースの仕事をする機会が増えてきている。また、様々な機能が搭載された使い勝手の良いアプリケーションソフトは多数存在するが、その習得には非常に時間がかかる。そこで、この授業では、学校やビジネスでよく使用されている代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。なお、ホームページ作成については、その仕組みを理解して欲しいため、専用のソフトではなくメモ帳を使用する。</p> <p>【到達目標】各アプリケーションで課題を完成させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、ホームページ作成 (HTML：見出し、画像、箇条書き、ハイパーリンク、表)</p> <p>第2回 ホームページ作成2 (HTML：段落、水平線、地図、動画)</p> <p>第3回 ホームページ作成3 (CSS：Webページのデザイン設定、鑑賞会) 第1回課題</p> <p>第4回 プログラミング (Scratch)</p> <p>第5回 プログラミング2 (Scratch)</p> <p>第6回 プログラミング3 (言語は受講者の希望により決定する) 第2回課題</p> <p>第7回 動画編集 (フォト：起動、トリミング、テキスト入りビデオの作成、素材の収集)</p> <p>第8回 動画編集2 (フォト：描画、クリップの速度、音楽、3D効果)</p> <p>第9回 動画編集3 (フォト：タイトル、鑑賞会) 第3回課題</p> <p>第10回 データベース (Excelのデータベース機能)</p> <p>第11回 データベース2 (Microsoft Access：テーブル、クエリ)</p> <p>第12回 データベース3 (Microsoft Access：テーブル、クエリ、フォーム) 第4回課題</p> <p>第13回 PDF編集 (Adobe Acrobat Reader：PDFの作成と閲覧)</p> <p>第14回 PDF編集2 (Adobe Acrobat Reader：PDF編集)</p> <p>第15回 PDF編集3 (Adobe Acrobat Pro：画像やファイルでPDF資料作成、鑑賞会) 第5回課題</p>			
授業外学習(予習・復習)	興味を持って予習し、授業内容の復習をすること。			
成績評価の方法	5回の課題 (80%) と期末レポート (20%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

授業科目	PCアプリケーション実習 (B)		担当者	上野 祐子
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	講義終了時、適宜対応(要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】様々なアプリケーションソフトを使ってみよう</p> <p>【概要】事務系の職に就いても、プログラミングやPDF編集、データベースの仕事をする機会が増えてきている。また、様々な機能が搭載された使い勝手の良いアプリケーションソフトは多数存在するが、その習得には非常に時間がかかる。そこで、この授業では、学校やビジネスでよく使用されている代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。なお、ホームページ作成については、その仕組みを理解して欲しいため、専用のソフトではなくメモ帳を使用する。</p> <p>【到達目標】各アプリケーションで課題を完成させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、ホームページ作成 (HTML: 見出し, 画像, 箇条書き, ハイパーリンク, 表)</p> <p>第2回 ホームページ作成2 (HTML: 段落, 水平線, 地図, 動画)</p> <p>第3回 ホームページ作成3 (CSS: Web ページのデザイン設定, 鑑賞会) 第1回課題</p> <p>第4回 プログラミング (Scratch)</p> <p>第5回 プログラミング2 (Scratch)</p> <p>第6回 プログラミング3 (言語は受講者の希望により決定する) 第2回課題</p> <p>第7回 動画編集 (フォト: 起動, トリミング, テキスト入りビデオの作成, 素材の収集)</p> <p>第8回 動画編集2 (フォト: 描画, クリップの速度, 音楽, 3D 効果)</p> <p>第9回 動画編集3 (フォト: タイトル, 鑑賞会) 第3回課題</p> <p>第10回 データベース (Excel のデータベース機能)</p> <p>第11回 データベース2 (Microsoft Access: テーブル, クエリ)</p> <p>第12回 データベース3 (Microsoft Access: テーブル, クエリ, フォーム) 第4回課題</p> <p>第13回 PDF 編集 (Adobe Acrobat Reader: PDF の作成と閲覧)</p> <p>第14回 PDF 編集2 (Adobe Acrobat Reader: PDF 編集)</p> <p>第15回 PDF 編集3 (Adobe Acrobat Pro: 画像やファイルで PDF 資料作成, 鑑賞会) 第5回課題</p>			
授業外学習(予習・復習)	興味を持って予習し、授業内容の復習をすること。			
成績評価の方法	5回の課題(80%)と期末レポート(20%)の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

授業科目	日本経済論		担当者	船津 潤
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	講義前後, それ以外にも随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の明治維新以降の経済・経済政策の動きとその背景について理解を深めること</p> <p>【概要】明治維新から現在までの日本の経済と経済政策の動向について, 特に産業政策, そして構造改革とアベノミクス以降の政策に焦点を当てながら講義します。また, 過去が現在とどうつながっているかという歴史的推移とともに, 石油危機, ブラザ合意, 日米構造協議, そしてグローバル化といった海外からの影響を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①明治維新以降の日本の経済と経済政策の歴史的推移について理解し, 説明できるようになること ②日本経済の歴史と海外とのつながりを踏まえて, 日本経済の現状と課題について自分なりの見解が持てるようになること</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 三和良一『概説日本経済史 近現代(第3版)』東京大学出版会 内閣府『年次経済財政報告 各年度版』</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明</p> <p>第2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1): 資本主義社会とはどんな社会か等</p> <p>第3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2): 明治維新の意義, その後の産業構造の変化等</p> <p>第4回 敗戦直後の日本経済: 敗戦直後の状況, 傾斜生産方式, 1950年代前半の産業政策等</p> <p>第5回 高度成長の開始: 高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等</p> <p>第6回 行政指導: 勸告操短, 企業の反発等</p> <p>第7回 開放経済体制への移行: IMF8 条国への移行, 産業再編等</p> <p>第8回 1970年代の日本経済: 2度のオイル・ショック, 構造不況業種への対応, 知識集約化・高付加価値化への動き等</p> <p>第9回 企業集団とその変化: 戦後の企業集団の特徴, グループ内の結び付き, 現在の状況等</p> <p>第10回 1980年代以降の日本経済: 対米貿易摩擦, 日米構造協議等</p> <p>第11回 現在の産業政策: 産業競争力強化法, 現在の産業政策の特徴等</p> <p>第12回 グローバル化と構造改革への動き: ブラザ合意と国際協調, バブル崩壊後の動向等</p> <p>第13回 構造改革: 構造改革の特徴・本質等</p> <p>第14回 構造改革とアベノミクス: 構造改革下の福祉改革の内容と特徴, アベノミクスとの比較等</p> <p>第15回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p>			
授業外学習(予習・復習)	普段から日本経済関連のニュース(できれば外国のメディアを含む複数)に注目すること, 特に講義後に関連する事項についてインターネットや文献等を通して調べ, 検討することを勧めます(これらは公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。			
成績評価の方法	筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。			
実務経験について	なし			

授業科目	財政学		担当者	船津 潤
	(履修年次)	指定なし	授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)
	(学期)	後期 (単位) 2単位	(必修/選択)	選択 (授業形態) 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財政に関する基本的な概念や理論、日本の財政の基礎的な制度について、内容、実態、特徴、課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】まずは財政に関する基本的な概念や理論について講義します。その上で、それらを踏まえて財政の基礎的な制度に関する講義を行います。そこでは、財政民主主義という財政制度の根幹、経済における公共部門と民間部門の関係、歴史的推移、そしてグローバル化の影響を強く意識しながら講義を進めます。この講義を受講することで、他の科目で学んだマクロ経済学の理論等が実際にどのように政策に活用されているのかも理解できると思います。また、財政は、政治と経済の「結節点」(つなぎ目の役割を担っています)ので、他の科目では触れることが少ない経済に対する政治の影響に関しても見識を高めることができます。</p> <p>【到達目標】①財政の基礎的な制度について理解し、説明できるようになること ②実際の政府の活動について分析・評価できるようになること ③マクロ経済学の理論等がどのように政策に活用されているのかを理解すること ④財政の影響を踏まえて、経済・社会の動向を的確に把握できるようになること</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005年) 植田和弘・諸富徹編著『テキストブック現代財政学』有斐閣(2016年) 神野直彦著『財政学 第3版』有斐閣(2021年) 森田稔著『図説 日本の財政 各年度版』東洋経済新報社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第2回 財政(1)：財政の定義、財政学の特徴、政府に対する評価の揺れ等</p> <p>第3回 財政(2)：市場の失敗、財政民主主義と制度化に必要な原則等</p> <p>第4回 予算(1)：定義、役割、政府と議会の役割、予算原則等</p> <p>第5回 予算(2)：予算の種類、特別会計と「埋蔵金」、改革の方向等</p> <p>第6回 経費(1)：定義、主要な分類、経費膨張の法則、転位効果等</p> <p>第7回 経費(2)：小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等</p> <p>第8回 租税(1)：定義、租税の根拠、代表的な租税原則等</p> <p>第9回 租税(2)：公平の基準、望ましい税制とは等</p> <p>第10回 公債(1)：定義、民間債務・租税との対比、公債の種類等</p> <p>第11回 公債(2)：日本の国債発行における原則、制度、「ギリシャよりひどい」は本当か等</p> <p>第12回 財政投融资：定義、運用対象、批判、2001年度の改革、今後の展望等</p> <p>第13回 財政の国際化：国際公共財、グローバル化と国際的財政移転等</p> <p>第14回 財政改革を考える：社会の変化と財政、財政危機とは、財政改革で求められる視点等</p> <p>第15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p>			
授業外学習(予習・復習)	<p>講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べて検討すること、普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数、加えて日本関連だけでなく、諸外国関連のニュースも)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことが出てきたら、遠慮なく質問してください。</p>			
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>			
実務経験について	なし			

授業科目	農業経済論	担当者	前田 千春
	[履修年次] 指定なし [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応する。メール等で事前に連絡してください。
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の食料生産の動向および日本の農業・農村の現状と課題について学ぶ。</p> <p>【概要】日本の農業・農村は、農業者の減少および高齢化、耕作放棄地の増加といった様々な課題に直面している。本講義では、農業の生産・流通の仕組みや日本農業の展開過程を学ぶとともに、現代の農業・農村に関する諸課題とその原因を世界情勢や経済発展と関連付けながら考察し、これからの日本農業について考える。</p> <p>【到達目標】世界の食料生産の動向および日本の農業・農村の現状と課題について理解し、日本農業の展望について考える能力を身に付ける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2)		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：農業・農村の基礎知識 第 2回 世界の農産物需給と食料事情 第 3回 農産物貿易とアグリビジネス 第 4回 先進国の農業と農業政策 第 5回 途上国経済と農業 第 6回 日本の農産物需給と食料事情 第 7回 日本農業の展開過程① 第 8回 日本農業の展開過程② 第 9回 農業の生産組織と土地 第 10回 農産物流通の仕組み 第 11回 日本の農業・農村の現状と課題 第 12回 農業・農村の多面的機能 第 13回 日本農業の新たな取り組み① 第 14回 日本農業の新たな取り組み② 第 15回 まとめ：これからの日本農業		
授業外学習(予習・復習)	講義ノートおよび参考文献を活用して小レポートに取り組むこと。		
成績評価の方法	小レポート (60%)、期末レポート (40%)		
実務経験について	なし		

授業科目	ファイナンス論	担当者	岩上 敏秀
	[履修年次] 指定なし [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】資産運用のための投資商品や投資手法について実践的な知識を学びます。</p> <p>【概要】私たちが働いて生涯で得られる所得は限られています。限られた生涯所得を運用し、上手に資産形成しながら将来に備えていく必要があります。本講義は、株式などの投資商品について学んだ上で、リスクを抑えながら一定の効果を生む投資手法について考えていきます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使って、受講者と双方向コミュニケーションしながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】証券投資や資産運用に関するニュースを理解できるようになる。各種投資商品の内容とリスクを理解し、自分に最適な投資商品を選べるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業内で適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目的・進め方、人生とお金 (1) (生涯でかかるお金を確認しよう) 第 2回 人生とお金 (2) (生涯で受け取るお金を確認しよう) 第 3回 投資のリスクとリターン (投資収益率、分散、標準偏差) 第 4回 主な投資商品 (預金、債券、株式、投資信託、債券と金利) 第 5回 株式投資 (1) (株式会社、上場、証券取引所) 第 6回 株式投資 (2) (会社の価値、株価の適正水準) 第 7回 株式投資 (3) (事例研究①：企業分析、業績予想) 第 8回 株式投資 (4) (事例研究②：企業価値・株価の予想) 第 9回 株式投資 (5) (株価、チャート、株価の変動要因) 第 10回 長期・積立・分散投資 (1) (分散の効果) 第 11回 長期・積立・分散投資 (2) (複利パワー) 第 12回 投資信託 (1) (投資信託の基本) 第 13回 投資信託 (2) (ファンド情報の見方、ファンドの選び方) 第 14回 証券会社の選び方、NISA の活用 第 15回 まとめ、授業アンケート		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。		
成績評価の方法	中間レポート (30%) + 期末試験 (70%)		
実務経験について	国内外の金融機関で約 30 年の実務経験があります。		

授業科目	経済学史		担当者	カムチャイ・ライサミ		
	〔履修年次〕	1,2,3年	授業外対応	講義終了時		
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔授業形態〕	講義方式
	〔必修/選択〕	選択				
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経済学史入門 経済学説の史的展開をやさしく解説する。</p> <p>【概要】経済学の時代的要請と経済学者の人となり経済学の黎明期前後（17世紀頃）から現代経済学（20世紀初頭）までの主要学説と経済学者を中心に紹介する。</p> <p>【到達目標】経済学の歴史を知ることによって経済学をより深く理解できること 経済学の歴史を学んでその意義と限界を知ることによって正しい見方を身につける。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 教科書は特に指定しない。毎回プリントを配布する。</p> <p>(2) 必要に応じてその都度指示する。</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 経済学史の方法と範囲</p> <p>第2回 重商主義の経済思想：マリーヌ、マン、スチュアート</p> <p>第3回 重農主義の経済思想：ケネー、テュルゴ</p> <p>第4回 過渡期の経済思想：ペティ、ロック、マンデヴィル、カンティロン、ヒューム</p> <p>第5回 古典学派の生成：スミス</p> <p>第6回 古典学派の発展：マルサス、リカード</p> <p>第7回 古典学派の完成：セイ、シスモンディ、シーニア、ミル</p> <p>第8回 ドイツ歴史学派：リスト、ロッシュャー、ヒルデブラント、クニース</p> <p>第9回 マルクス学派：マルクス</p> <p>第10回 限界革命の先駆者達：テューネン、ゴッセン、デュピュイ</p> <p>第11回 限界分析の経済学：クールノー、ジェヴォンズ</p> <p>第12回 オーストリア学派：メンガー、ヴィーザー、バウム＝バヴェルク</p> <p>第13回 ローザンヌ学派：ワルラス、パレート</p> <p>第14回 ケンブリッジ学派：マーシャル、ピグー</p> <p>第15回 ケインズ革命：ケインズ</p>					
授業外学習(予習・復習)	授業前後に必ず合計で4時間程度の予習・復習を行うこと。					
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）					
実務経験について	なし。					

授業科目	経済学特講		担当者	山口 祐司		
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。		
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔授業形態〕	講義方式
	〔必修/選択〕	選択				
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ経済とアメリカを中心とした国際経済関係の歴史を通して、経済学上のキーワードを学んでいきます。</p> <p>【概要】アメリカの力の相対的低下にもかかわらずアメリカに学ぶ意義（第1回）。19世紀から20世紀初頭にかけてのアメリカ経済の勃興（第2～3回）。1929年に始まる大恐慌の原因と結果（第4～6回）。1950～70年代にかけて、アメリカが主導する資本主義陣営の高度経済成長とその限界（第7～9回）。1980年代以降の、「新自由主義」と呼ばれる改革をテコにした新たな経済成長の仕組み（第10～12回）。新自由主義がアメリカにもたらした問題と今後のゆくえ（第13～14回）。経済を考える上でも、科学・技術や文化、政治など、同時代の社会の動きを知ることが重要である。映像資料等を利用してそうした知識も補っていく。</p> <p>【到達目標】アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 講義時に提示</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか</p> <p>第2回 アメリカ経済の勃興（1）大量生産体制</p> <p>第3回 アメリカ経済の勃興（2）債務国から世界最大の債権国へ</p> <p>第4回 大恐慌と第二次世界大戦（1）狂騒の1920年代</p> <p>第5回 大恐慌と第二次世界大戦（2）保護貿易と世界恐慌</p> <p>第6回 大恐慌と第二次世界大戦（3）ニューディールと戦争</p> <p>第7回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（1）ブレトンウッズ体制と戦後国際経済秩序</p> <p>第8回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（2）ケインズ政策と持続的経済成長</p> <p>第9回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（3）ドル危機と石油危機</p> <p>第10回 新自由主義の興隆（1）レーガノミクスと金融化</p> <p>第11回 新自由主義の興隆（2）グローバルサプライチェーンの形成</p> <p>第12回 新自由主義の興隆（3）先端技術とイノベーション</p> <p>第13回 新自由主義の帰結（1）リーマンショック</p> <p>第14回 新自由主義の帰結（2）格差問題のゆくえ</p> <p>第15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。					
成績評価の方法	レポート（60%）、毎回の授業で実施する授業まとめ（40%）					
実務経験について	なし。					

授業科目	国際経済論		担当者	西原 誠司	
	〔履修年次〕	1,2,3年	授業外対応	メール・Line で連絡。	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Love & Peace の経済学—国際化する経済と「戦争なき世界」の実現可能性を考える</p> <p>【概要】 ナチスドイツのポーランド侵攻を契機に始まった第二次世界大戦は、500万人のユダヤ人を含む6000万人の死者をだし、終結した。大戦後、様々な紛争・戦争は起こったが、第三次世界大戦は、起こっていない。では、なぜ、世界戦争が起こらなかったのか。このことの理由を、グローバル化した経済に求め、9.11以後多発するテロをなくす条件を考える。</p> <p>【到達目標】 グローバル化した経済（国際経済）の現段階を認識することによって、どうすれば世界平和を実現することができるのかを考え、行動する力を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 西原誠司『グローバリゼーションと民族・国家を超える共同体』（文理閣、2022年）</p> <p>(2) 朝日吉太郎編著『欧州グローバル化の新ステージ』（文理閣、2015年）西原誠司『グローバリゼーションと現代の恐慌』（文理閣、2000年）</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに—アンネ・フランクの悲劇を繰り返さないために</p> <p>第2回 資本主義の発展と貧困・恐慌・戦争—19世紀資本主義と20世紀資本主義の違い</p> <p>第3回 資本主義のグローバル化と戦争を引き起こす政治・経済的条件の変化</p> <p>第4回 資本主義のグローバル化と国際的地域経済ブロックの登場</p> <p>第5回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ① 戦争の原因となった資源の共同管理</p> <p>第6回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ② 関税同盟・市場統合・通貨統合</p> <p>第7回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ③ 新しい国際通貨ユーロ登場の意味と金融危機</p> <p>第8回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ④ 人間と環境にやさしい新しい社会をめざして</p> <p>第9回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ⑤ 多文化主義・多言語主義とEU統合</p> <p>第10回 最後の帝国主義アメリカ ①—ふたつの大戦による西欧の没落と米国の覇権の確立</p> <p>第11回 最後の帝国主義アメリカ ②—多国籍企業の対外進出と経済競争・ベトナム戦争の敗北</p> <p>第12回 最後の帝国主義アメリカ ③—米・ソ冷戦体制の終焉とアメリカの「復活」・「没落」</p> <p>第13回 動揺する西欧世界とイスラム世界—モダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩</p> <p>第14回 台頭する中国の新シルクロード戦略と「平和国家」・日本の役割</p> <p>第15回 おわりに—杉原千敏の生き方に学ぶ</p>				
授業外学習(予習・復習)	テキストの該当箇所を事前に読み、講義のあと、復習をし、それを通じて自分の見解を形成することに心がけてください。				
成績評価の方法	授業態度（積極的に授業に参加しているか、感想文の提出）および筆記試験				
実務経験について					

授業科目	アジア経済論		担当者	山本 一哉	
	〔履修年次〕	1,2,3年	授業外対応	講義終了時（メールでは即時）	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 アジア諸国の経済発展と課題を学ぶ</p> <p>【概要】 本講義では、東アジア、東南アジア、南アジア諸国の経済発展と構造変化を学ぶとともに、各国経済が抱える課題やアジア域内における相互依存関係（貿易・投資）の深化、また日本とアジア諸国との経済関係等について解説する。特に、アジアだけでなく世界において政治・経済的なプレゼンスを急激に高めつつある中国経済について詳しく解説する。</p> <p>【到達目標】 アジア諸国の経済発展の現状、要因、プロセスと各国が抱える問題点について理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント（使用しない。講義の際にレジюме・資料を配付する）。</p> <p>(2) レジюмеに記載する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス—本講義の概要と進め方について</p> <p>第2回 日本の経済発展—戦後の高度経済成長</p> <p>第3回 東アジア諸国の経済発展と課題—韓国と台湾</p> <p>第4回 東アジア諸国の経済発展と課題—香港とシンガポール</p> <p>第5回 東南アジア諸国の成長戦略と構造変化—タイ・マレーシア</p> <p>第6回 東南アジア諸国の成長戦略と構造変化—フィリピン・インドネシア</p> <p>第7回 東南アジア諸国の成長戦略と構造変化—ベトナムの「ドイモイ」政策と経済発展</p> <p>第8回 国際的な資本移動とアジア通貨危機—東南アジア・韓国</p> <p>第9回 中国の「改革開放」戦略と経済発展</p> <p>第10回 中国の経済発展と経済格差の拡大—地域発展戦略の転換と産業集積</p> <p>第11回 中国人民元改革—為替レート制度改革・人民元国際化・資本取引の自由化</p> <p>第12回 中国の貿易・直接投資の拡大—一带一路戦略・米国との通商摩擦</p> <p>第13回 南アジア諸国の経済発展—インド、パキスタン、バングラデシュ</p> <p>第14回 アジア域内の相互依存の深化—市場メカニズムとFTAによる経済統合</p> <p>第15回 日本とアジア諸国の貿易及び直接投資</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験（100%）				
実務経験について					

授業科目	外国貿易論	担当者	大重 康雄
	[履修年次] 指定なし	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期 [単位] 2単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経済のグローバル化という視点で、貿易取引における現状と課題について考える</p> <p>【概要】貿易や外国為替取引の仕組みをわかりやすく解説し、常に変化する貿易の現状と脱炭素等国際間で発生する様々な課題を報道資料や日本貿易振興機構（ジェトロ）等のデータを使い考える。</p> <p>【到達目標】貿易取引の基本的仕組み理解し、国際経済の動静に対し自分なりの見解をもって意見が言える。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) グローバル・エコノミー第3版 (有斐閣アルマ)</p> <p>(2) 講師配付プリント (毎回配付)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 開講 貿易と私たちの暮らし</p> <p>第2回 自由貿易のもたらす利益</p> <p>第3回 新古典派貿易理論を学ぶ</p> <p>第4回 グローバル生産システム (GVC) と貿易の現状</p> <p>第5回 国際収支からみた日本貿易の姿</p> <p>第6回 外国為替市場と為替レート</p> <p>第7回 貿易政策と貿易摩擦の歴史</p> <p>第8回 貿易決済の方法</p> <p>第9回 国際貿易の論点・・・中間まとめ (ディスカッション)</p> <p>第10回 世界の地域貿易協定 (FTA/EPA) の現状</p> <p>第11回 自由貿易体制の変化と日本の貿易</p> <p>第12回 鹿児島県の貿易取引の現状・特徴</p> <p>第13回 日本貿易の展望と課題</p> <p>第14回 グローバル・イシュー：経済開発と環境・人権を考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業中各自に質問をするのでシラバスに従って予習をしてこよう。また復習し次回質問すべきことをまとめておくこと。		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + 授業での発言内容 (20%)		
実務経験について	地域金融機関職員としての実務経験 (外貨資金取引・貿易投資相談業務など)、AIBA 認定貿易アドバイザー (#018)		

授業科目	国際関係論	担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 指定なし	授業外対応	適宜対応
	[学期] 前期 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生じるさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史 (特にアジアにおける冷戦) を対象とし、国際システムの歴史の変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】国際社会の現代的諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 適宜、紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的、方法</p> <p>第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何が違うのか</p> <p>第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第7回 国際関係のなりたち4：核兵器について</p> <p>第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバリゼーションと貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：保守化する世界</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：コロナ、ウクライナ後の社会</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	試験 (100%) によって評価する。		
実務経験について	NGO での勤務経験あり		

授業科目	アジア事情		担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東アジア、東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】アジアは、地理、歴史、言語、文化、宗教、民族など、すべての面において多様である。本講義では、「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも、「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては植民地化、現代においては脱植民地化、国民国家建設、リージョナリズム（地域主義）の形成という共通性がある。また、最近東アジアにおける地域協力が注目を浴びている。これらの共通する事象を抽出し、分析する。</p> <p>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 適宜、紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第 2 回 アジアの巨大遺跡：アンコールワット</p> <p>第 3 回 アジアの巨大遺跡：バガン</p> <p>第 4 回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか</p> <p>第 5 回 東南アジアの基本情報：地理や気候</p> <p>第 6 回 海域アジア：海を通じた結びつき（1）</p> <p>第 7 回 海域アジア：海を通じた結びつき（2）</p> <p>第 8 回 海域アジア：海を通じた結びつき（3）</p> <p>第 9 回 歴史的形成1：植民地の様子</p> <p>第 10 回 歴史的形成2：植民地からの独立（1）</p> <p>第 11 回 歴史的形成3：植民地からの独立（2）</p> <p>第 12 回 東南アジア1：インドシナ3国</p> <p>第 13 回 東南アジア2：タイ、ミャンマー、マレーシア</p> <p>第 14 回 アジアにおける協力体制：ASEAN を中心とする協力</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する			
成績評価の方法	レポート（100%）によって評価する。			
実務経験について	NGO での勤務経験あり			

授業科目	地域経済論		担当者	前田 千春
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	適宜対応する。メール等で事前に連絡してください。
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の地域経済の構造を学び、地域経済の発展について考察する。</p> <p>【概要】人口減少や高齢化により地域経済の活性化は日本において喫緊の課題となっている。本講義では、地域経済の構造やその変化を捉える視点を学び、具体的な事例の分析を通じて地域経済の発展について考察する。</p> <p>【到達目標】日本の地域経済の構造とその実態を理解できる。地域経済を分析し、発展に向けた考察ができるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：「地域」とは何か</p> <p>第 2 回 地域経済の基礎理論</p> <p>第 3 回 地域経済循環と地域構造</p> <p>第 4 回 地域経済の実態</p> <p>第 5 回 地域経済に関する統計</p> <p>第 6 回 グループワーク①：地域経済統計の活用</p> <p>第 7 回 大都市と地方都市</p> <p>第 8 回 工業都市</p> <p>第 9 回 農業地域</p> <p>第 10 回 山村地域</p> <p>第 11 回 地場産業地域</p> <p>第 12 回 第三次産業地域</p> <p>第 13 回 地域経済の成長理論</p> <p>第 14 回 グループワーク②：地域経済の事例分析</p> <p>第 15 回 まとめ：地域経済の発展に向けて</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をして講義を受けること。グループワーク前には課題を提示するので、各自で取り組むこと。			
成績評価の方法	講義内レポート・発表（50%）、期末レポート（50%）			
実務経験について	なし			

授業科目	地域産業政策	担当者	前田 千春
	[履修年次] 指定なし [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応 [必修/選択] 選択	適宜対応する。メール等で事前に連絡してください。 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域産業政策の理論と事例を学び、これからの地域づくりの方策を探る。</p> <p>【概要】地域産業政策とは国や地方自治体が地域の活性化のために産業振興等を行う政策のことである。本講義では、日本の地域を取り巻く現状と地域産業政策の必要性について学ぶとともに、各地で行われている地域産業政策の効果を考察し、これからの地域産業政策の在り方を探る。</p> <p>【到達目標】地域産業政策の理論および具体的な取り組みを理解できる。地域が直面する課題を把握し、今後の地域産業政策の在り方や方向性を提示できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：日本の地域を取り巻く現状</p> <p>第 2回 人口移動と地域間格差</p> <p>第 3回 地域産業政策と地方創生</p> <p>第 4回 地域産業政策の事例①：製造業・工業</p> <p>第 5回 地域産業政策の事例②：農業</p> <p>第 6回 地域産業政策の事例③：林業</p> <p>第 7回 地域産業政策の事例④：観光業</p> <p>第 8回 地域産業政策の事例⑤：離島</p> <p>第 9回 鹿児島県における地域産業政策</p> <p>第 10回 グループワーク①：鹿児島県を事例に地域産業政策を考える</p> <p>第 11回 地方創生にかかる制度・仕組み</p> <p>第 12回 海外の地域産業政策①</p> <p>第 13回 海外の地域産業政策②</p> <p>第 14回 グループワーク②：地域産業政策の作成と発表</p> <p>第 15回 まとめ：これからの地域産業政策の在り方</p>		
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をして講義を受けること。グループワーク前には課題を提示するので、各自で取り組むこと。		
成績評価の方法	講義内レポート・発表 (50%)、期末レポート (50%)		
実務経験について	なし		

授業科目	地方財政論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 指定なし	授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)
	〔学期〕 後期	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択
			〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地方財政に関する基本的な概念や理論、日本の地方財政制度の内容、実態、特徴、課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係(政府間関係)の特徴を踏まえて、日本の地方財政について、基本的な概念や理論、制度について講義します。ここでは、地方団体の自治体としての側面と国の地方行政機関としての側面の葛藤やグローバル化などの地方財政に改革が求められている背景、そして生活の基盤を支える地方財政の重要性を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①日本の地方財政制度について理解し、説明できるようになること ②地方財政について主体的に考察し、判断できるようになること ③自分が暮らす地域の課題を見出し、その解決策を提案できるようになるための基礎力を身につけること</p>		
(1)テキスト	(1)	なし	
(2)参考文献	(2)	総務省編『地方財政白書 各年版』日経印刷	
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明	
	第 2 回	地方自治(1)：定義、地方政府の特徴、地方分権が求められる背景等	
	第 3 回	地方自治(2)：グローバル化の影響等	
	第 4 回	地方予算(1)：予算の役割、地方予算の特徴、中央と地方の相互依存関係等	
	第 5 回	地方予算(2)：日本の制度の特徴、課題、日本の政府間関係の特徴の影響等	
	第 6 回	地方の決算：定義、日本の制度と問題点、外部監査、市民オンブズマン等	
	第 7 回	地方の経費(1)：定義、主な分類とその見方、都道府県と市町村の違い等	
	第 8 回	地方の経費(2)：義務的経費と投資的経費、その問題点等	
	第 9 回	国庫支出金(1)：補助金の分類、国庫支出金とは、求められる役割、補助金制度において配慮すべき原則等	
	第 10 回	国庫支出金(2)：実態、問題点、三位一体の改革等	
	第 11 回	地方交付税(1)：財政調整制度とは、地方交付税の制度の内容等	
	第 12 回	地方交付税(2)：機能、問題点等	
	第 13 回	地方債：定義、適債事業、2006 年度からの変化等	
	第 14 回	住民自治：シアトル・メトロの事例(地方政府の創設)について	
	第 15 回	まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等	
授業外学習(予習・復習)	講義の前後に総務省のサイト等で関連事項について調べ、検討すること、普段から地方財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディア(民間企業との関係では特に興味深い記事を出すことがあります)を含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことが出てきたら、遠慮なく質問してください。		
成績評価の方法	筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		
実務経験について	なし		

授業科目	非営利組織論	担当者	丸田 真悟
	[履修年次] 1,2,3年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会における非営利組織 (NPO) の役割と課題そして可能性</p> <p>【概要】概要 非営利組織 (NPO) は、医療・福祉から街作り、学術・文化・芸術、国際交流まで社会のあらゆる分野で市民の多種多様なニーズに応えるサービスを創り出しています。行政や企業との協働も一段と進み、その存在は今や市民生活の中で重要な位置を占めるようになってきました。一方でNPOを巡る環境も大きく変わりつつあります。そこで本講義ではNPOの概念と組織運営について考えると共に、現代日本社会におけるNPOの役割と課題、これからの可能性について考えます。</p> <p>【到達目標】NPOに関する基本的な知識を習得し、現代社会におけるNPOの役割と課題、可能性を考える基盤を養います。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを使用</p> <p>(2) 雨森孝悦『テキストブック NPO 第3版』東洋経済新報社 (2020)、澤村明・田中敬文・黒田かをり・西出優子『はじめてのNPO論』有斐閣 (2017)、田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣 (2009) ほか随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 非営利組織 (NPO) とは何か 「非営利」の意味、NPOの定義について考えます。</p> <p>第2回 NPOとボランティア NPOを支える理念について考えます。</p> <p>第3回 NPOの歴史と存在理由 資本主義経済の中で存在感を増している理由を考えます。</p> <p>第4回 NPOの世界1 様々なNPOの活動分野とその組織としての特徴について考えます。</p> <p>第5回 NPOの世界2 様々なNPOの活動分野とその組織としての特徴について考えます。</p> <p>第6回 NPOの機能 NPOが社会において果たしている機能について考えます。</p> <p>第7回 NPOにかかわる制度と政策 NPOの運営や税に関する制度について考えます。</p> <p>第8回 行政、企業とNPO 行政や企業との「協働」・「パートナーシップ」について考えます。</p> <p>第9回 NPOのマネジメント1 NPOの経営管理について考えます。</p> <p>第10回 NPOのマネジメント2 NPOの経営戦略について考えます。</p> <p>第11回 NPOのマネジメント3 NPOの資金調達と評価手法について考えます。</p> <p>第12回 (WS) NPOをつくる1 具体的にNPOを考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第13回 (WS) NPOをつくる2 具体的にNPOを考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第14回 NPOの課題と可能性 NPOを取り巻く環境とそこから見えてくる課題と可能性について考えます。</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	レポート (70%) + 授業ごとに実施する小論文 (30%)		
実務経験について	認定NPO法人理事長		

授業科目	労働法	担当者	藤野 博行
	[履修年次] 指定なし [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応	基本的にいつでも対応します。
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】労働者として知っておくべき知識と、その知識を活用して考える力を育みます。</p> <p>【概要】あまり意識していないかもしれませんが、みなさんは、アルバイトや卒業後に企業等で働く際に雇用契約を結びます。そして、働く皆さんを守ってくれる法律、それが労働法です。本科目は、労働法のうち、皆さんがアルバイトや社会に出たときに知っておいた方がよい基本的な知識を講義するほか、簡単な課題についてグループで考えます。</p> <p>【到達目標】①労働法に関する基本的なキーワードや考え方について、その内容を説明できる、②グループで意見を出し合いながら課題について論理的に考え、他者に自分の意見をわかりやすく表現することができる、③異質な他者と議論・協働することができる</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (資料を配付します)</p> <p>(2) 必要に応じて提示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業を進めるにあたって</p> <p>第2回 労働法ってどんな法律？ (労働法の概要)</p> <p>第3回 労働法は就職活動にも適用されます！ (採用と労働法①)</p> <p>第4回 「採用」について (採用と労働法②)</p> <p>第5回 会社と従業員の間に発生する権利義務について</p> <p>第6回 賃金 (給料) の額や支払い方法にも決まりがある</p> <p>第7回 知識確認テスト (前半)</p> <p>第8回 労働時間・休憩や休日についても決まりがある</p> <p>第9回 残業したり、休日に出勤したらどうなるの？</p> <p>第10回 カラダが「ととのう」有給休暇 (年休) の話</p> <p>第11回 仕事に体を壊したら？ (労災保険制度)</p> <p>第12回 仕事を辞める場合 (労働契約の終了)</p> <p>第13回 育児・介護と仕事の両立 (産前・産後休業、育児・介護休業法)</p> <p>第14回 知識確認テスト (後半)</p> <p>第15回 期末レポートに向けて</p>		
授業外学習(予習・復習)	講義時に指示します。		
成績評価の方法	①知識確認テスト (20点×2)、②期末レポート (50点) ③グループワーク等の際の積極性 (10点)。		
実務経験について			

授業科目	地域研究特講	担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 指定なし	授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の格差の状況について認識し、貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。</p> <p>【概要】本講義では、さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後、国際機関、国家、地方自治体、市民が主体となった国際協力について概観する。</p> <p>【到達目標】さまざまな行為体が、さまざまなレベルで、多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。</p>		
(1)テキスト	(1) 使用しない。		
(2)参考文献	(2) 新潟国際ボランティアセンター編『地方発の国際NGO：グローバルな市民社会に向けて』（明石書店、2008年）		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目的と方法 第 2回 世界の現状1：キーワードから見る国際社会（1） 第 3回 世界の現状2：キーワードから見る国際社会（2） 第 4回 国際社会の変容（1）：ブレトンウッズ体制について 第 5回 国際社会の変容（2）：ブレトンウッズ体制の変容 第 6回 国際社会の変容（3）：グローバリゼーション、コロナ、経済安全保障 第 7回 途上国の開発：開発をどのように捉えるか？ 第 8回 社会開発への視点（1）：NGOの活躍（1） 第 9回 社会開発への視点（2）：NGOの活躍（2） 第 10回 社会開発への視点（3）：国連と人間開発（1） 第 11回 社会開発への視点（4）：国連と人間開発（2） 第 12回 社会開発への視点（5）：国連とSDGs(1) 第 13回 社会開発への視点（6）：国連とSDGs(2) 第 14回 社会開発への視点（7）：地方自治体とSDGs 第 15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	試験（100%）によって評価する。		
実務経験について	NGOでの勤務経験あり		

授業科目	地方自治法	担当者	山本 敬生
	[履修年次] 指定なし	授業外対応	適宜対応（要予約）
	[学期] 後期 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住民自治、団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で、地方公共団体の種類及び事務、住民の権利義務、いて検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】地方自治法は、国と地方自治公共団体の役割分担、機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設、普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与、国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では、地方自治法をわかりやすく解説することで、地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し、国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>		
(1)テキスト	(1) プリント		
(2)参考文献	(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法（令和6年度版）』、有斐閣		
授業スケジュール	第 1回 地方自治の意義 第 2回 地方公共団体の種類 第 3回 地方公共団体の区域・事務 第 4回 住民の権利義務(1) 第 5回 住民の権利義務(2) 第 6回 条例と規則(1) 第 7回 条例と規則(2) 第 8回 議会(1) 第 9回 議会(2) 第 10回 執行機関(1) 第 11回 執行機関(2) 第 12回 国等の地方公共団体への関与 第 13回 長と議会との関係(1) 第 14回 長と議会との関係(2) 第 15回 予算		
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。		
成績評価の方法	筆記試験（90%）＋授業での発言内容（10%）を基準にして評価する。		
実務経験について	なし		

授業科目	簿記論Ⅱ		担当者	岡村 雄輝
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原則を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原則の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Ⅰの学修を前提として講義をします。</p> <p>【到達目標】決算整理手続、補助簿、伝票の記入について学習する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互、片山覚、北村敬子（編）『新検定 簿記講義3級 商業簿記』（令和5年版）、中央経済社。</p> <p>(2) 伊藤龍峰他『基本簿記原理』（第3版）、中央経済社。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 簿記一巡の手続きとは？：仕訳・転記・決算</p> <p>第2回 繰越商品・仕入・売上：3分法、諸掛と返品</p> <p>第3回 繰越商品・仕入帳と売上帳、商品有高帳</p> <p>第4回 売掛金と買掛金：売掛金と買掛金の意義、人名勘定、売掛金と元帳と買掛金元帳</p> <p>第5回 売掛金と買掛金：売掛金明細表と買掛金明細表、クレジット売掛金、前払金と前受金</p> <p>第6回 その他の債権と債務：貸付金と借入金、未収入金と未払金、立替金と預り金</p> <p>第7回 その他の債権と債務：仮払金と仮受金、受取商品券、差入保証金</p> <p>第8回 有形固定資産：有形固定資産の取得と売却、減価償却、固定資産台帳、年次決算と月次決算</p> <p>第9回 貸倒損失と貸倒引当金：貸倒れと貸倒損失、貸倒れの見積りと貸倒引当金の設定 資本：株式会社の設立と株s期の発行、繰越利益剰余金、配当</p> <p>第10回 収益と費用：収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い、消耗品と貯蔵品、諸会費</p> <p>第11回 税金：租税公課、法人税、住民税及び事業税、消費税</p> <p>第12回 伝票：仕訳帳と伝票、3伝票制、伝票から帳簿への記入、伝票の集計</p> <p>第13回 財務諸表：精算表の作成、財務諸表の作成</p> <p>第14回 総合問題：問題演習と解説</p> <p>第15回 総合問題：問題演習と解説</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。			
成績評価の方法	期末テスト100%			
実務経験について	なし			

授業科目	経営管理論		担当者	竹中 啓之
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	適宜対応(要予約)、及び講義終了後
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】管理はすべての集団・組織において存在する職能です。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することと定義できます。従って経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能となります。またこの活動を行うのは経営者の役割です。この講義では、経営者が、効率的な組織運営のための工夫や、組織内部の関係者や組織外部の状況に効果的に対処する方法について講義していきます。</p> <p>【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門用語を知る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営管理論とは何か：管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。</p> <p>第3回 組織における人間（1）：企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。</p> <p>第4回 組織における人間（2）：テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。</p> <p>第5回 組織における人間（3）：メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。</p> <p>第6回 組織における人間（4）：マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。</p> <p>第7回 他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのかを考える。</p> <p>第8回 人的資源管理（1）：企業での人的資源管理全体の流れや考え方について説明する。</p> <p>第9回 人的資源管理（2）：採用管理について説明する。</p> <p>第10回 人的資源管理（3）：人事異動（初任配置・配置転換・昇進など）について説明する。</p> <p>第11回 人的資源管理（4）：人材育成の基礎について説明する。</p> <p>第12回 人的資源管理（5）：人材育成の「熟練」について考えていく。</p> <p>第13回 人的資源管理（6）：人事評価の仕組みと賃金管理について説明する。</p> <p>第14回 リーダーの役割とは何か：リーダー（上司）として適切な行動とは何かを考える。</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験(70%)、中間レポートもしくは小テスト(30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。			
実務経験について	なし			

授業科目	労務管理論	担当者	近間 由幸
	[履修年次] 指定なし [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応 [必修/選択] 選択	適宜対応 (要予約) [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】労務管理に関わる諸制度と働く人々に及ぼす影響について</p> <p>【概要】授業では、日本型雇用慣行の下での労務管理の諸制度とそれらが成立した背景について解説し、それらが時代に於いて一定の合理性を持っていたことを解説する。また、それらの諸制度がどのような労働問題を生じさせてきたのかを解説する</p> <p>【到達目標】歴史的・国際的な視点から、企業の働き方には多様な形が存在することを理解し、受講学生が現代の企業に望ましい労働環境とは何かについて考えられることを到達目標とする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 永田瞬・戸室健作編『働く人のための人事労務管理』八千代出版</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 インTRODクシヨナー講義の概要と労務管理を学ぶ意義について</p> <p>第 2 回 労務管理とはなにか</p> <p>第 3 回 雇用管理制度のしくみ</p> <p>第 4 回 組織構造と職務内容</p> <p>第 5 回 キャリア開発のしくみ</p> <p>第 6 回 賃金管理制度のしくみ (1) 一年功賃金とはなにか</p> <p>第 7 回 賃金管理制度のしくみ (2) 一職能給と職務給</p> <p>第 8 回 人事評価制度のしくみ</p> <p>第 9 回 福利厚生制度のしくみ</p> <p>第 10 回 労働時間管理のしくみ</p> <p>第 11 回 日本企業の女性管理職・役人の現状と労務管理</p> <p>第 12 回 ダイバーシティ・マネジメント</p> <p>第 13 回 労務管理と労働組合</p> <p>第 14 回 労務管理の国際比較</p> <p>第 15 回 全体のまとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%)、筆記試験 (70%)		
実務経験について	なし		

授業科目	原価計算	担当者	劉 美玲
	[履修年次] 1,2,3 年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応 [必修/選択] 選択	適宜対応 (要予約) [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】原価計算入門</p> <p>【概要】原価計算の仕組みを理解することは、原価管理や原価改善のために不可欠である。本講義では、原価計算の基礎について、計算問題に取り組みながら学びます。</p> <p>【到達目標】原価計算の基礎的知識と技術の習得</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高橋賢『テキスト原価会計』(最新版) 中央経済社</p> <p>(2) なし</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス、原価及び原価計算の基礎知識</p> <p>第 2 回 原価の費目別計算</p> <p>第 3 回 製造間接費の配賦</p> <p>第 4 回 単純個別原価計算</p> <p>第 5 回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算 1</p> <p>第 6 回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算 2</p> <p>第 7 回 中間テスト</p> <p>第 8 回 単純総合原価計算</p> <p>第 9 回 総合原価計算における減損費と仕損費の処理</p> <p>第 10 回 工程別総合原価計算と組別総合原価計算</p> <p>第 11 回 等級別総合原価計算と連産品の原価計算</p> <p>第 12 回 標準原価計算 1</p> <p>第 13 回 標準原価計算 2</p> <p>第 14 回 直接原価計算</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、計算問題に取り組む予定です。		
成績評価の方法	中間テスト (30%) 期末テスト (70%)		
実務経験について	なし		

*受講生の会計系履修済み科目の状況や学習進捗状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。
会計学総論、簿記論Ⅰ、簿記論Ⅱ、管理会計論を受講済み、もしくは日商簿記3級を学習済みであることが望ましい

授業科目	経営学特講		担当者	瀬口 毅士		
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択
					〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代における多国籍企業の市場戦略を理解する</p> <p>【概要】本講義は、現代における多国籍企業の市場戦略について講義します。プリントの配付と板書を基本としつつ、現代の多国籍企業を理解する上で有益な各種資料を使用しながら進めます。また、リアクションペーパーを活用することで、双方向の授業を目指します。したがって、様々な資料を自分なりの視点から読み解き、それを文章化するというプロセスに対して積極的に参加できる学生さんの受講を望みます。</p> <p>【到達目標】多国籍企業の市場戦略における現代的特徴を知る。本講義で学んだ知識や視角を基に、新聞や経済誌などで得られる企業活動に関する情報を理解し、分析できる能力を涵養する。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2)					
授業スケジュール	<p>第 1回 インTRODククション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第 2回 多国籍企業とは何か：多国籍企業の定義や国内企業との相違について解説する。</p> <p>第 3回 現代企業の動向 (1)：各種資料を用いて、現代企業の実例を知る。</p> <p>第 4回 多国籍企業の経営環境 (1)：グローバリゼーションを中心に、多国籍企業の経営環境を講義する。</p> <p>第 5回 多国籍企業の経営環境 (2)：各種資料を用いて、経営環境の現代的特徴を考える。</p> <p>第 6回 多国籍企業の経営環境 (3)：現代の経営環境について検討し、それを文章として表現する。</p> <p>第 7回 多国籍企業の活動 (1)：各種資料を用いて、現代社会における多国籍企業の重要性を考える。</p> <p>第 8回 多国籍企業の活動 (2)：各種資料を用いて、多国籍企業の経営戦略について考察する。</p> <p>第 9回 市場戦略の現代的特徴 (1)：現代企業における市場戦略の特徴を解説する。</p> <p>第 10回 市場戦略の現代的特徴 (2)：各種資料を通じて、市場戦略に関する理解を深める。</p> <p>第 11回 文化とは何か：文化の定義や企業活動との関連性について解説する。</p> <p>第 12回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係 (1)：多国籍企業の市場戦略と文化の関係について講義する。</p> <p>第 13回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係 (2)：各種資料によって、多国籍企業の市場戦略と文化を考える。</p> <p>第 14回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係 (3)：多国籍企業の市場戦略と文化の関係に対する視点を涵養する。</p> <p>第 15回 まとめ：全体の流れを振り返りながら、講義のポイントについて解説する。</p>					
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。					
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%) + リアクション・ペーパーなど (30%)					
実務経験について	なし					

授業科目	情報管理論		担当者	竹中 啓之		
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	適宜対応 (要予約)、及び講義終了後		
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択
					〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会における情報への正しい理解と、情報管理の重要性について考えていく。</p> <p>【概要】この授業では、情報とはそもそもどのようなものなのかについて考える。そのため、情報の特性、情報が重要である意味、情報を理解する際の注意点など、「情報の扱い方・読み解き方」について講義する。情報機器を扱う技能やスキル等を取り上げることにはしないが、情報を扱う際に重要だと思われる概念や考え方について、社会科学的な視点から捉えられるような知識や手法を説明し、現在の情報社会のあり方についても考える。</p> <p>【到達目標】今日的な情報の定義を理解する。メディアリテラシーに考え方について理解する。単なるデータと情報の違いを理解し、情報があふれる社会の危険性や問題点について考える。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する					
授業スケジュール	<p>第 1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第 2回 情報とは何か・情報の定義 (1)：情報の定義を確認し、「情報」と「データ」の違いなどを説明する。</p> <p>第 3回 情報とは何か・情報の定義 (2)：情報の単位や具体的事例を示して、情報の重要性を理解する。</p> <p>第 4回 情報社会について取り上げ、「産業の情報化」「情報の産業化」などについて説明する。</p> <p>第 5回 情報リテラシーについて (1)：情報リテラシーの概要について説明する。</p> <p>第 6回 情報リテラシーについて (2)：リテラシー能力の必要性について具体的事例を踏まえ説明する。</p> <p>第 7回 情報リテラシーについて (3)：情報リテラシーとメディアリテラシーの関係について考える。</p> <p>第 8回 メディアの歴史について (1)：各種メディアについて理解を深める (新聞～テレビ)。</p> <p>第 9回 メディアの歴史について (2)：各種メディアについて理解を深める (テレビ～ネット)。</p> <p>第 10回 自分のメディア史を考える：ワークシートを利用して、自分とメディア媒体との関係を考える。</p> <p>第 11回 情報操作：情報操作とは何かを説明する。</p> <p>第 12回 炎上について：主にネット上で起こる「炎上」について取り上げ、特徴や対策について考える。</p> <p>第 13回 情報と編集：情報発信における編集作業の重要性を認識し、編集という考え方の理解を深める。</p> <p>第 14回 情報化の必要性：現代社会における情報化の必要性とその意味について考える。</p> <p>第 15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。					
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%)、中間レポートもしくは小テスト (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。					
実務経験について	なし					

授業科目	会計情報論		担当者	宗田 健一	
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	適宜対応	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】会計情報の作成方法、伝達方法、利用方法を知る</p> <p>【概要】会計情報の作成方法についての基礎を学ぶ。開示される会計情報について、その仕組みを知る。開示された会計情報の利用方法を知る。各種分析手法（成長性、収益性、安全性）について学習し、個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際、『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』（通称：EDINET（Electronic Disclosure for Investors' NETwork））を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います。</p> <p>【到達目標】会計情報の作成、伝達、利用の方法を知る。基本的な財務諸表分析が行えるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 宇田川莊二『中小企業の財務分析』（第6版）同友館。</p> <p>(2) 随時指定</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録確認、講義計画に関する説明、分析対象企業の選定。</p> <p>第2回 会計情報の利用者：利害関係者、会計情報の入手方法（EDINETの使い方、アニュアルレポートの入手等）</p> <p>第3回 有価証券報告書：全体像、記載内容の確認、分析対象企業の絞り込み</p> <p>第4回 会計学と財務情報・非財務情報について</p> <p>第5回 財務諸表分析による企業分析①（収益性分析：ROA、ROEなど）</p> <p>第6回 財務諸表分析による企業分析②（収益性分析：損益分岐点分析など）</p> <p>第7回 財務諸表分析による企業分析③（成長性分析：各種増加率など）</p> <p>第8回 財務諸表分析による企業分析④（成長性分析：売上予測など）</p> <p>第9回 財務諸表分析による企業分析⑤（安全性分析：短期的視点、長期的視点など）</p> <p>第10回 財務諸表分析による企業分析⑥（キャッシュ・フロー分析①）</p> <p>第11回 財務諸表分析による企業分析⑦（キャッシュ・フロー分析②）</p> <p>第12回 時系列分析（2社以上）</p> <p>第13回 同業他社比較分析（2社以上）</p> <p>第14回 学生による分析報告とディスカッション</p> <p>第15回 まとめ：レポート試験の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>				
授業外学習（予習・復習）	PC教室での講義となりますので、各自で予習、復習をお願いします。				
成績評価の方法	中間レポート（30%）、期末レポート（70%）				
実務経験について	なし				

1年生でも履修可としますが、会計学総論、簿記論、財務会計論を履修済みの学生を対象とした内容です。それらを履修済みでない場合も、日商簿記検定3級レベルの内容を理解できておれば履修して構いません。なお、エクセルの基礎的な操作を必要とする講義です。

授業科目	経営戦略論		担当者	瀬口 毅士	
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	適宜対応（要予約）	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営戦略論に関する基本的知識を習得する</p> <p>【概要】経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら、長期的な存続・発展を図るための、企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」、および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に講義します。さらに、最近の企業動向を紹介しながら、現代社会における経営戦略のあり方についても解説します。</p> <p>【到達目標】経営戦略論の基本概念を知るとともに、各概念がどのような関係にあるのかについても考えることができる。また、講義を通じて獲得した知見を基に、企業に関するニュースや新聞などの情報をより理解できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配付</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第2回 経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。</p> <p>第3回 経営理念とドメイン：経営理念およびドメイン（事業領域）について解説する。</p> <p>第4回 規模の経済と範囲の経済：具体的事例を挙げながら、規模の経済と範囲の経済を説明する。</p> <p>第5回 垂直統合と垂直分業、水平統合と水平分業：統合と分業について、垂直と水平に区分しながら解説する。</p> <p>第6回 多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に、企業の多角化戦略について考える。</p> <p>第7回 M&Aと戦略的提携（1）：事例を紹介しながら、M&Aについて解説する。</p> <p>第8回 M&Aと戦略的提携（2）：事例を紹介しながら、戦略的提携について解説する。</p> <p>第9回 経験曲線とPLC：PPMの基礎となる、経験曲線とPLCについて解説する。</p> <p>第10回 PPM：全社的視点から、経営資源の配分について考える。</p> <p>第11回 競争戦略論とは何か：競争戦略論の概要や競争戦略論における2つのアプローチを紹介する。</p> <p>第12回 ポジショニング・アプローチ：M. ポーターの学説を中心に、ポジショニング・アプローチについて講義する。</p> <p>第13回 資源ベース・アプローチ：前回の内容と対比しながら、資源ベース・アプローチを説明する。</p> <p>第14回 企業の社会的責任と経営戦略：CSR戦略を中心に、企業の社会的責任について考える。</p> <p>第15回 経営戦略と現代社会：これまでの内容を振り返りながら、現代社会における経営戦略のあり方を考察する。</p>				
授業外学習（予習・復習）	授業のなかで適宜指示します。				
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）				
実務経験について	なし				

授業科目	応用データ活用	担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 指定なし [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応 [必修/選択]	適宜対応 選択 [授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リレーショナルデータベースの基本操作と Excel を用いた統計処理</p> <p>【概要】この演習の前半では、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を学び、データベース設計に関する問題に取り組んでいく。後半では、Excel を用いた統計処理を学ぶ。</p> <p>【到達目標】・データベースソフト Access の使い方を修得する。 ・Excel を用いた統計処理を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 特になし		
授業スケジュール	第 1 回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第 2 回 Access の操作：Access とは 第 3 回 Access の操作：データベースのデータ編集 第 4 回 Access の操作：クエリの作成 第 5 回 Access の操作：アクションクエリの作成 第 6 回 Access の操作：データベースの設計 第 7 回 Access の操作：リレーションシップの作成 第 8 回 Access の操作：レポートの作成とマクロの利用 第 9 回 Excel による統計処理：基本統計量 第 10 回 Excel による統計処理：正規分布 第 11 回 Excel による統計処理：相関係数と回帰直線 第 12 回 Excel による統計処理：比率の推定と差の検定 第 13 回 Excel による統計処理：平均値の推定 第 14 回 Excel による統計処理：平均値の差の検定 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中の課題 (50%) + 期末試験 (50%)		
実務経験について	なし		

授業科目	プログラミング	担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 指定なし [学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応 [必修/選択]	適宜対応 選択 [授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】・基本的なプログラミング技術を身につける。 ・VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) たてばやし淳, 『ExcelVBA 塾』 マイナビ出版 (2) 特になし		
授業スケジュール	第 1 回 序論：プログラミングの概念 第 2 回 VBA の利用：マクロについて 第 3 回 VBA の利用：セルの操作 第 4 回 VBA の利用：演算と変数 第 5 回 VBA の利用：繰り返し (1) 第 6 回 VBA の利用：繰り返し (2) 第 7 回 VBA の利用：最終行の取得 第 8 回 VBA の利用：条件分岐 (1) 第 9 回 VBA の利用：条件分岐 (2) 第 10 回 VBA の利用：関数の利用 第 11 回 VBA の利用：データ抽出 第 12 回 VBA の利用：シートの操作 第 13 回 VBA の利用：ファイルの操作 第 14 回 VBA の利用：実用マクロ 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中の課題 (50%) + 期末試験 (50%)		
実務経験について	なし		

授業科目	財務会計論		担当者	岡村 雄輝		
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応		
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[授業形態]	講義方式
			[必修/選択]	選択		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財務会計のルールと基礎概念を理解する</p> <p>【概要】簿記論では技術的な学習が中心でしたが、本科目では「企業会計に関する問題」を取りあげた新聞記事を教材として、現代社会のなかで複式簿記を基礎とする会計という計算制度の果たしている役割を学習します。言い換えれば、「企業会計」への社会的視線を出発点にして、財務諸表の社会的役割や財務諸表の作成原理について解説を進めていきます。※会計学総論、簿記論Ⅰ・Ⅱの学修を前提として講義を展開します。</p> <p>【到達目標】各企業の採用している会計方法の違いが財務諸表に及ぼす影響を与えるか、さらには、そうした会計方法を採用した理由・背景などにも関心を向けて欲しい。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 永野則雄『ケースでまなぶ財務会計』（第9版）、白桃書房。</p> <p>(2) 桜井久勝『財務会計講義』（第25版）、中央経済社。</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクッション：会計をめぐる2つのドラマ</p> <p>第2回 会計の役割と規則：会計の機能と法規制</p> <p>第3回 財務諸表における表示：貸借対照表と損益計算書の関係と取引の認識</p> <p>第4回 財務諸表を読む：やさしい経営分析</p> <p>第5回 会計の計算原理：物語としての会計</p> <p>第6回 棚卸資産の会計：棚卸資産、評価方法、期末評価、処理方法の変更</p> <p>第7回 有形固定資産の会計：有形固定資産、減価償却の意味、算定方法、減損、リース</p> <p>第8回 無形固定資産の会計：無形固定資産、のれん、研究開発費とソフトウェア、繰延資産</p> <p>第9回 金融資産の会計：金融資産、有価証券、デリバティブ</p> <p>第10回 負債の会計：負債、引当金、退職給付債務、資産除去債務</p> <p>第11回 純資産の会計：純資産の部、会社の再編、自己株式、配当</p> <p>第12回 収益・費用・税金：収益と費用の認識、税効果会計</p> <p>第13回 連結財務諸表：連結決算の意義</p> <p>第14回 その他の財務諸表：包括利益計算書、キャッシュフロー計算書、株主資本等変動計算書、注記</p> <p>第15回 決算：真実な報告と会計戦略</p>					
授業外学習(予習・復習)	講義前後にテキストを精読してください。					
成績評価の方法	期末テスト100%					
実務経験について	なし					

授業科目	情報論特講		担当者	岡村 俊彦・倉重 賢治		
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	講義前に適宜対応		
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[授業形態]	講義方式
			[必修/選択]	選択		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ICT（情報通信技術）について実用的、応用的な学習をおこなう。</p> <p>【概要】ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークといったICTを学び、日商PC検定2級知識科目と同等以上の知識を得る。表計算ソフト（エクセル）の実用的な使用方法について学習を行う。</p> <p>【到達目標】実社会において、自らICT業務に携わり、効果的、効率的な活用ができるようにする。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) FOM出版「よくわかるマスター 改訂版 日商PC検定試験2級 知識科目 公式問題集」、プリント</p> <p>(2) 特になし</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明：授業概要と評価方法の説明</p> <p>第2回 ハードとソフト：PC等のICT機器のハードウェア、ソフトウェアの解説</p> <p>第3回 コンピュータの内部部品1：CPUとメモリの解説</p> <p>第4回 コンピュータの内部部品2：ストレージと光学ドライブの解説</p> <p>第5回 インターネットとネットワーク：TCP/IPの設定、ルータの役割の解説</p> <p>第6回 表計算ソフトの活用1：Webクエリのグラフ作成</p> <p>第7回 表計算ソフトの活用2：フィルターとピボットテーブル</p> <p>第8回 コンピュータが扱う数字：2進数</p> <p>第9回 情報セキュリティ1：インターネットの危険性</p> <p>第10回 情報セキュリティ2：暗号</p> <p>第11回 数理モデル1：シミュレーション</p> <p>第12回 数理モデル2：最適化</p> <p>第13回 AIの利活用：AIとは</p> <p>第14回 AIの利活用：機械学習</p> <p>第15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	レポート(30%) + 授業中の課題(40%) + 期末試験(30%)					
実務経験について	なし					

(注)「情報科学概論」(担当:岡村)を履修済み、もしくは同等以上の学習が終了している者を対象とする

授業科目	マーケティング論		担当者	瀬口 毅士		
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態]	講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ</p> <p>【概要】マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための仕組みづくりです。現代の企業にとってマーケティングはますます重要になっています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。可能であれば、グループ・ワークを適宜取り入れることで、内容の理解を深めていきます。</p> <p>【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得し、消費者としてあるいはマーケターとしての視点を養うことを目標とする。すなわち、今日の企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しているのかを理解することで、「賢い」消費者になると同時に、顧客ニーズや顧客満足度を満たすためにはいかなる工夫が必要であるかを考えられることである。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2)					
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。 第 2回 マーケティング論の基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。 第 3回 グループ・ワーク (1)：身近な商品について考えてみよう。 第 4回 標的市場の選択：STP について解説する。 第 5回 消費者行動分析：消費者行動論の基本を知ることで、諸飛車の購買行動について理解を深める。 第 6回 競争分析：「ポジショニング」の諸理論を中心に、企業間競争の構造分析の方法を知る。 第 7回 グループ・ワーク (2)：STP を使ってみよう。 第 8回 製品戦略：製品・サービスの分類や製品ミックスなどを説明する。 第 9回 価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。 第 10回 流通戦略 (1)：流通の仕組みとチャネル選択について説明する。 第 11回 流通戦略 (2)：チャネル管理とサプライチェーン・マネジメントについて解説する。 第 12回 プロモーション戦略：プロモーション・ミックスとメディア・ミックスを中心に講義する。 第 13回 ブランド戦略：これまでの内容を基に、ブランド構築やブランド管理について考える。 第 14回 企業の社会的責任とマーケティング：企業の社会性とマーケティングの関係性について解説する。 第 15回 グループ・ワーク③：ソーシャル・プロダクツを探してみよう。					
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。					
成績評価の方法	期末筆記試験 (80%) +リアクション・ペーパーやグループ・ワークなど (20%)					
実務経験について	なし					

授業科目	流通論		担当者	近間 由幸		
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態]	講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】小売業態の変化・発展を歴史的に捉える</p> <p>【概要】授業では、日本の小売企業を対象とし、現代の小売企業を取り巻く環境や消費者ニーズの多様性に対して、小売企業がどのように対応し、進化してきたのかを歴史的、体系的に考察する。また、このような小売企業の発展とともに現われた現代の流通における課題について検討する。</p> <p>【到達目標】受講学生が現代の流通業界の具体的な姿について理解し、流通業界に関する知識を身につけ、流通ビジネスの背後にある論理やメカニズムについて考えられるようになることを到達目標としている。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 石原武政・竹村正明・細井謙一編『1からの流通論 (第2版)』碩学舎					
授業スケジュール	第 1回 INTRODUCTIONー流通を取り巻く経済環境 第 2回 流通とはなにか 第 3回 日本の欧米化と百貨店の誕生 第 4回 高度経済成長と総合スーパー 第 5回 食品スーパーの革新性 第 6回 利便性の追求とコンビニエンス・ストア (CVS) 第 7回 ディスカウント・ストアの低価格戦略 第 8回 専門量販店の台頭 第 9回 ショッピングセンターの商業集積 第 10回 インターネット技術と電子商取引 (EC) 第 11回 流通構造の変化と小売業態 第 12回 小売・流通における労働問題 (1) 一物流危機とトラックドライバー 第 13回 小売・流通における労働問題 (2) 一接客販売業の働き方 第 14回 現代流通と消費行動の変化 第 15回 全体のまとめ					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%)、期末レポート (70%)					
実務経験について	なし					